

志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書(19)

県営特殊農地保全整備事業(田之浦地区)

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

宮 谷 口 遺 跡  
平 山 A 遺 跡

1991年3月

鹿児島県曾於郡志布志町教育委員会

## 序 文

本町は埋蔵文化財包蔵地が多く、前川・安楽川の流域を中心に約200箇所の周知の遺跡が知られております。

近年、宅地開発や農業基盤整備事業の増加に伴い、これらの遺跡の緊急確認調査もまた急増しております。

今回発掘された宮谷口・平山Aの両遺跡の確認調査も県営特殊農地保全整備事業田之浦地区の実施に先立って行われたものです。

ここにその調査結果を報告書として刊行いたしますが、この資料が歴史解明の一助となり、文化財の保護と学術研究のために広く活用されれば幸いです。

発刊に当たり、発掘を担当された各調査員はじめ指導者・作業協力者、又調査にご協力を頂きました土地所有者並びに関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、この調査を現場で担当されました鹿児島県教育庁文化課の主任文化財研究員であった旭慶男先生が平成元年12月事故により急逝されました。ここに哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成3年3月

志布志町教育委員会

## 例 言

1. この報告書は県営特殊農地保全整備事業（田之浦地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、鹿児島県農政部（農地整備課）からの受託事業として志布志町が受託し、調査主体者となり実施した。鹿児島県教育庁文化課の指導・協力を得た。
3. 本書で用いたレベル数値は、県農政部の作成した地形図に基づいた海拔高である。
4. 遺物番号はすべて通し番号とし、本文及び挿図・図番とも一致する。土器番号が先行し、その後石器に遺物番号をつけた。
5. 遺物の実測・トレース及び写真撮影は、堂込が行った。
6. 本書の執筆は次のとおりである。

第1章	.....	旭
第2章	.....	米元
第3章・第4章・第5章・第6章	.....	堂込
7. 本書の整理は旭の後を受けて堂込が行ったが、整理作業の指導・企画と本書の企画は旭による。

## 本文目次

序文	
例言	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第3章 層位	6
第4章 宮谷口遺跡の調査	9
第1節 調査の概要	9
第2節 各トレンチの調査	11
第3節 小結	24
第5章 平山A遺跡の調査	30
第1節 調査の概要	30
第2節 各トレンチの調査	30
第3節 小結	36
第6章 まとめにかえて	38

## 表目次

第1表 周辺遺跡地名表	5
第2表 宮谷口遺跡トレンチ別一覧	24
第3表 宮谷口遺跡出土土器観察表(1)	25
第4表 宮谷口遺跡出土土器観察表(2)	26
第5表 宮谷口遺跡出土土器観察表(3)	27
第6表 平山A遺跡トレンチ別一覧表	36
第7表 平山A遺跡出土土器観察表	37
第8表 宮谷口遺跡・平山A遺跡出土土器計測表	37

## 挿 図 目 次

第1図	扇辺遺跡位置図 .....	4
第2図	土層模式柱状図 .....	6
第3図	宮谷口遺跡地形図及びトレンチ配置図 .....	7
第4図	宮谷口遺跡施工後の地形図及び遺跡範囲 .....	8
第5図	1 トレンチ遺物出土状況及び土層断面図 .....	9
第6図	1 トレンチ出土土器 .....	10
第7図	1 トレンチⅥ層検出集石遺構 .....	11
第8図	2 トレンチ・3 トレンチ遺物出土状況及び土層断面図 .....	12
第9図	2 トレンチ出土土器(1) .....	13
第10図	2 トレンチ出土土器(2) .....	14
第11図	2 トレンチ出土土器(3) .....	15
第12図	2 トレンチ出土土器(4) .....	16
第13図	3 トレンチⅥ層検出集石遺構 .....	16
第14図	3 トレンチ出土土器 .....	17
第15図	4 トレンチ遺物出土状況及び土層断面図 .....	18
第16図	4 トレンチ出土土器(1) .....	19
第17図	4 トレンチ出土土器(2) .....	20
第18図	5 トレンチ・6 トレンチ土層断面図 .....	20
第19図	7 トレンチ遺物出土状況及び土層断面図 .....	21
第20図	6 トレンチ・7 トレンチ・8 トレンチ出土土器 .....	22
第21図	8 トレンチ遺物出土状況及び 8 トレンチ・9 トレンチ土層断面図 .....	23
第22図	宮谷口遺跡・平山A遺跡出土土器(1) .....	28
第23図	宮谷口遺跡出土土器(2) .....	29
第24図	平山A遺跡地形図及びトレンチ配置図 .....	31
第25図	平山A遺跡施工後の地形図及び遺跡範囲 .....	32
第26図	1 トレンチ・2 トレンチ遺物出土状況及び土層断面図 .....	33
第27図	1 トレンチ・2 トレンチ出土土器 .....	34
第28図	平山A遺跡その他のトレンチの上層断面図 .....	35

## 図 版 目 次

図版 1	宮谷口遺跡遠景 .....	39
図版 2	宮谷口遺跡 1 トレンチⅡ層遺物出土状況 .....	40
	宮谷口遺跡 2 トレンチ遺物出土状況	
図版 3	宮谷口遺跡 2 トレンチNo.85出土状況 .....	41
	宮谷口遺跡 3 トレンチ遺物出土状況	
図版 4	宮谷口遺跡 3 トレンチ集石遺構 .....	42
	宮谷口遺跡 4 トレンチ遺物出土状況	
図版 5	宮谷口遺跡 4 トレンチ完掘状況 .....	43
	宮谷口遺跡 4 トレンチ土層	
図版 6	宮谷口遺跡 5 トレンチ土層 .....	44
	宮谷口遺跡 7 トレンチ遺物出土状況	
図版 7	宮谷口遺跡No.132出土状況 .....	45
	宮谷口遺跡 7 トレンチ落ち込み検出状況	
図版 8	平山A遺跡遠景・1 トレンチ遺物出土状況 .....	46
図版 9	平山A遺跡各トレンチの上層 .....	47
	宮谷口遺跡出土土器No.3・9・18・19・22	
図版10	宮谷口遺跡出土土器No.23・25・85・91・92・93・102・107・ 108・109・116・128・129・130・132 .....	48
図版11	宮谷口遺跡・平山A遺跡出土土器No.140・141・142・143、 押し引きと内面調整 .....	49
図版12	作業風景、発掘調査参加者 .....	50

# 第1章 調査の経過

## 第1節 調査に至るまでの経過

鹿児島県教育委員会（以下県文化課）では、県下の市町村教育委員会と連携し、文化財の保存・活用を図るため、各開発機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

この事前協議制に基づき、鹿児島県農政部農地整備課（大隅耕地事務所）は志布志町内において「県営特殊農地保全整備事業（田之浦地区）」の計画策定にあたり、事業地区内の埋蔵文化財の有無について県文化課に照会した。

これをうけて文化課は、昭和63年4月当該地区の埋蔵文化財分布調査を志布志町教育委員会社会教育課と実施した。

分布調査の結果、当該事業区域内には周知の遺跡である宮谷口遺跡が含まれており、土器片などの遺物が散布しているのが確認された。このため事業者事前に遺跡の範囲・性格等を把握するための確認調査を実施することとなった。

発掘（確認）調査は、県農政部（農地整備課・大隅耕地事務所）からの受託事業として、志布志町教育委員会が調査主体となり、県文化課の協力を得て平成元年8月7日から9月1日までの17日間実施した。

## 第2節 調査の組織

調査主体者	志布志町教育委員会		
調査責任者	志布志町教育委員会	教 育 長	野間 隆
調 査 事 務	＊	社 会 教 育 課 長	西坂 弘行
	＊	主 幹 兼 社 会 教 育 係 長	川崎 卓男
	＊	文 化 体 育 係 長	前田 泰郎
	＊	主 査	畔地 正昭
	＊	＊	満石富士雄
	＊	主 事	谷口 隆博
	＊	＊	米元 史郎
	＊	＊	荒平 安次
	＊	＊	杉田 美保
調査担当者	鹿児島県教育庁文化課	文 化 財 研 究 員	旭 慶男
	志布志町社会教育課	主 事	米元 史郎
整理担当者	鹿児島県教育庁文化課	文 化 財 研 究 員	堂込 秀人
調査指導者	鹿児島県文化財保護審議会委員		河口 貞徳

なお、調査の企画等において、原教育庁文化課長吉井浩一、同課長補佐奥園義則、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸、同企画助成係長京田秀允の各氏のほか同企画助成係の指導助言を得た。

### 第3節 調査の経過

- 8月7日(月) 宮谷口遺跡調査開始。調査器具搬入。調査についての説明。トレンチ設定。1・2・4 T掘下げ。トレンチ位置図作成。
- 8月8日(火) 1～5 T掘下げ。1 T：Ⅱ層より弥生前期の土器出土。4 T：Ⅵ層より縄文早期の土器(円筒形貝殻文)出土。
- 8月9日(水) 1～4 T掘下げ。2 T・3 T：Ⅵ層より縄文早期の土器(円筒形貝殻文)出土。遺物出土状況写真撮影、平板測量。
- 8月10日(木) 1～4 T掘下げ。2 T・3 T・4 T：Ⅵ層遺物出土状況写真撮影、平板測量。3・5・6 T位置図作成。大隅耕地事務所久保主査来訪。
- 8月11日(金) 4～6 トレンチ掘下げ。
- 8月17日(木) 1～8 T掘下げ。1・2 T：Ⅵ層出土遺物平板測量。4 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。
- 8月18日(金) 1～8 T掘下げ。1・2 T：Ⅵ層遺物出土状況写真撮影、平板測量。3 T：Ⅵ層出土集石遺構実測。7 T：Ⅵ層及びⅦ層より縄文早期の土器出土。出土状況写真撮影、平板測量。
- 8月21日(月) 雨天のため発掘作業中止。文化会館にて出土遺物の整理。
- 8月22日(火) 5～7 T掘下げ。6 T：Ⅵ層より縄文早期土器出土。7 T：Ⅵ層上面でⅥ層の落ち込み確認。
- 8月23日(水) 1・3・5～9 T掘下げ。1 T：Ⅵ層出土遺物平板測量。3 T：Ⅵ層より黒曜石製打製石鏃出土。8 T：Ⅵ層より縄文早期の土器出土。
- 8月24日(木) 1・3・7～10 T掘下げ。2・5 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。平山A遺跡トレンチ設定。
- 8月25日(金) 1・3・8・9 T：完掘状況写真撮影。平山A遺跡へ移動。2・4～9 トレンチ掘下げ。4・9 トレンチは耕作土直下がヌレシラスになる。畑地造成等で削平されているところが多い。
- 8月28日(月) 平山A遺跡2 T：Ⅵ層より縄文早期の土器数点出土。出土状況写真撮影、平板測量。7～9 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。1～9 T位置図作成。宮谷口遺跡1・3・7 T：土層断面図作成。
- 8月29日(火) 平山A遺跡1 T：Ⅵ層より縄文早期の土器出土。出土状況写真撮影、平板測量。2・3・5・6 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。
- 8月30日(水) 平山A遺跡1 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。2～6 T埋め戻し。宮谷口遺跡7 T：トレンチ位置図作成。8・9 T：土層断面図作成。10 T：Ⅵ層掘下げ、出土遺物なし。
- 8月31日(木) 平山A遺跡1～4 T埋め戻し。宮谷口遺跡10 T：完掘状況写真撮影、土層断面図作成。3・6・7～9 T埋め戻し。
- 9月1日(金) 宮谷口遺跡10 T埋め戻し。発掘用具の片付け、点検、運搬。発掘調査終了。

## 第2章 遺跡の位置と環境

本町は鹿児島県の東端部で、志布志湾の湾奥に位置し、海岸線は東西に約10km・内陸部に向かって約20kmで南北に延びる釣鐘型の形状をなしている。

北東から東へ宮崎県都城市及び串間市と接して県境をなし、北西から西へは鹿児島県の末吉町・松山町・有明町とそれぞれ接している。

南面する海岸線は、ほぼ中央に位置する市街地を挟んで、西側は砂浜海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成された山稜が海までせまり岩礁海岸となっている。

尚、市街地は比高40m程のシラス台地の海食崖下に発達した古期砂丘帯上に立地しているが、これは約6000年前の縄文海進の名残と考えられる。

内陸部の地形は、山地と台地それに河川に沿って小規模に発達した沖積低地に大別できる。

北部から東部にかけての山稜地帯は、日南層群と呼ばれる新生代古第三期の海成層からなる南那珂山系の西端地帯となっている。さらに西に広がる広大なシラス台地(曾於丘陵地)には、この山系より派生する残丘状山地が北東より南西へ比較的散発的に、次第に小起伏となって延びている。

シラス台地は、河川の活発な浸食作用によって深い谷で分断され、さらにその支流によって樹枝状に拡がった谷頭浸食で細かく刻み込まれており大小幾多の台地が形成されている。また、谷底の低地とは急斜面や垂直崖によって区切られている。

町内を流れる主な河川は、西に延長2.4kmの安楽川が、東に延長1.5kmの前川がそれぞれ並行して南流しており、これらの河川の中流から下流域には中小の河岸段丘や谷底平野が随所に形成されている。

このような地形のため、町内に分布する約200箇所の遺跡の多くは台地上に立地しているが、内陸山間部では、山稜に附随するそれぞれ独立した小規模な山麓舌状台地の基部(谷あいの湧水を利用するタイプ)、あるいはその縁辺部(台地下の河川を利用するタイプ)に立地しており、さらに南部の広い台地では、水源に遠い台地中央に遺跡の立地は見られず、その縁辺部もしくは台地に付随する河岸段丘上に集中しているのが一般的な傾向である。

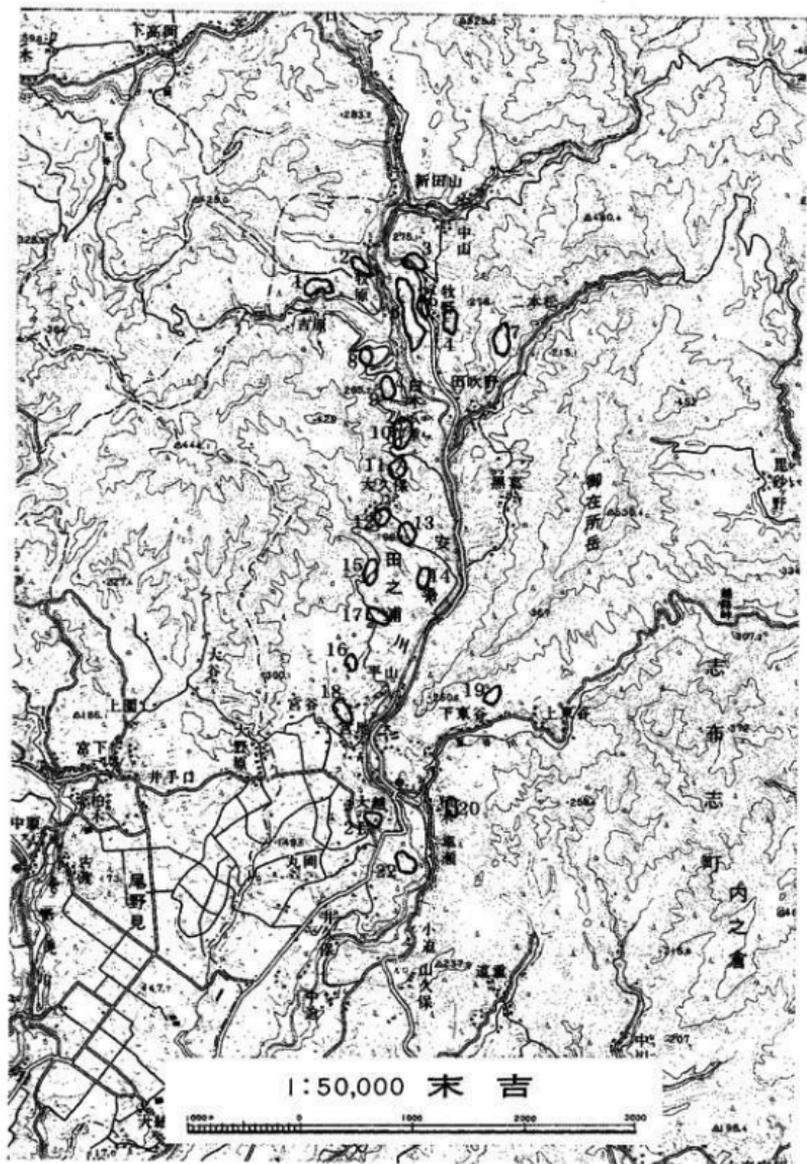
以上、町内の遺跡立地に伴う地形的環境を概観してきたが、今回調査の対象となった宮谷口・平山Aの両遺跡については、内陸山間である田之浦地区内の隣接する遺跡でありながら、その立地形態には若干の相違が見られる。

まず平山A遺跡は、田之浦平山集落の背後にそびえる標高300mの山稜に付随した山麓舌状台地の一部が、やせ尾根状に伸びた台地背縁部に小規模に立地している。

一方宮谷口遺跡は、さらにこのやせ尾根台地の先端に付随した南向きの河岸段丘縁辺部に立地している。

第1表 周辺遺跡地名表

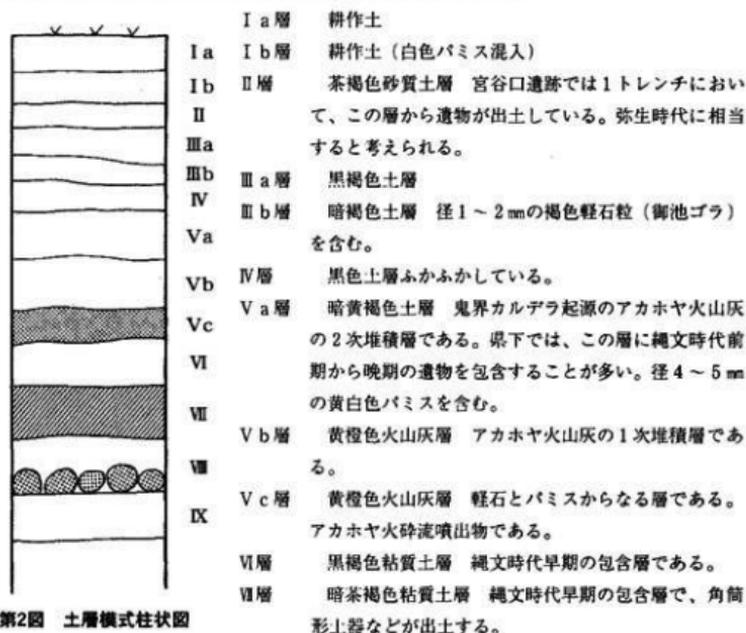
番号	遺跡名	所在地	地形	時代	出土遺物等	備考
1	吉原	田之浦吉原	台地縁辺	縄文前		
2	牧原	◇ 牧原	台地縁辺	◇ 早		
3	尾口	◇ 尾口	台地縁辺	◇ 早		
4	池口	◇ 池口	台地基部	◇ 早		
5	内門	◇ 内門	台地縁辺	◇・他	藏骨器	
6	牧野	◇ 牧野	河岸段丘	◇ 早・中・後・晩	阿高系・市来式	
7	田吹野	◇ 田吹野	台地基部	◇ 早・前・中	吉田式	H1調査報告(16)
8	倉野	◇ 吉原	台地基部	◇ 早・前	前半式・吉田式・押型文	鹿考古8号
9	板山	◇ 白木原	台地基部	◇ 早	楕円押型文	鹿考古8号
10	白木原	◇ ◇	台地基部	◇ 早	平格式・塞之神式・石鏃	S62調査報告(13)
11	白木八重	◇ ◇	台地基部	◇ 早	楕円押型文・黒曜石	鹿考古8号
12	大長野A	◇ 大長野	台地基部	◇ 早	押型文	
13	大長野B	◇ ◇	台地尾根	◇ 早	平格式・塞之神式・煮礫土器	
14	大長野C	◇ ◇	台地縁辺	◇ 早		
15	大長野D	◇ ◇	台地基部	弥生		
16	平山A	◇ 平山	台地尾根	縄文早	平格式	
17	平山B	◇ ◇	台地縁辺	縄文・弥生		
18	宮谷口	◇ 宮谷口	河岸段丘	縄文早・弥生	前半式・吉田式・石板式・平格式	
19	宮々中	◇ 宮々中	台地尾根	弥生		
20	下原	◇ 下原	台地縁辺	縄文・弥生		
21	大越	◇ 宮地原	台地縁辺	◇	前半式・吉田式・石板式	
22	小牧	◇ 小牧	台地縁辺	縄文	岩崎上・下層式	



第1圖 周辺通跡位置図

### 第3章 層位

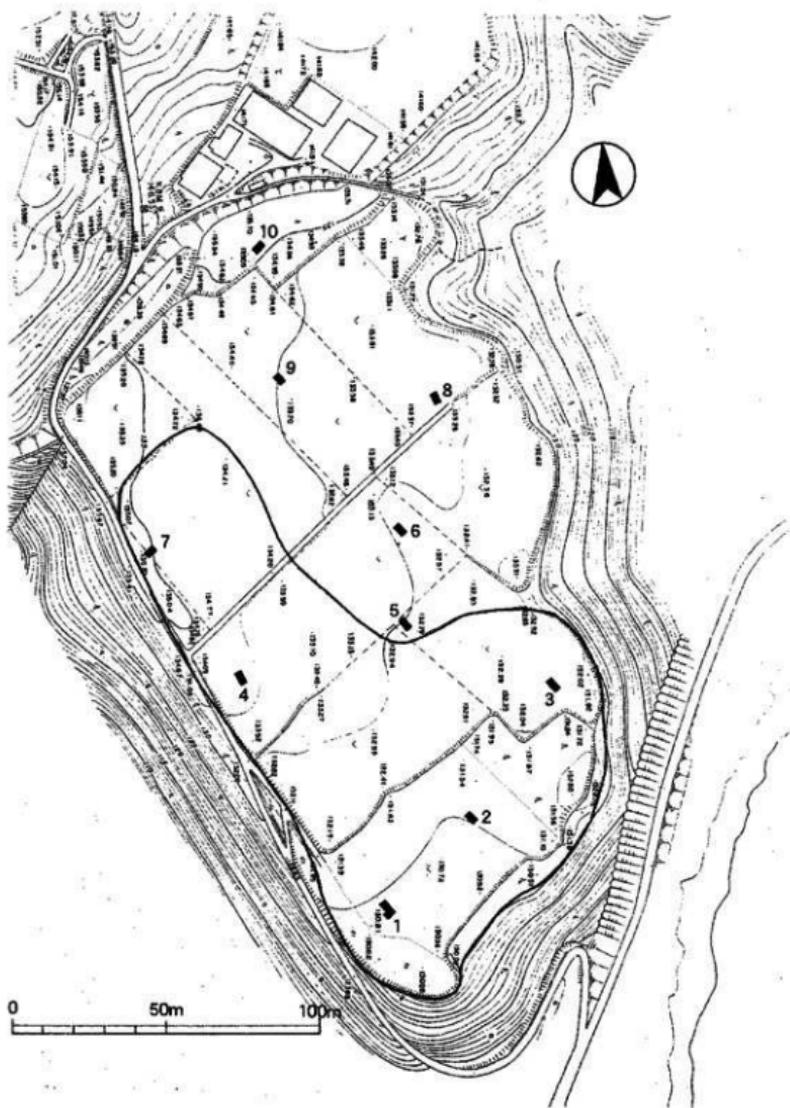
全体に畑地の造成で削平されている所が多いが、宮谷口遺跡の1・5・6・9トレンチの土層から基本土層が把握される。平山A遺跡においてはとくに削平が顕著で、各トレンチでV層から上位はほとんど削られている。基本土層は次のとおりである。



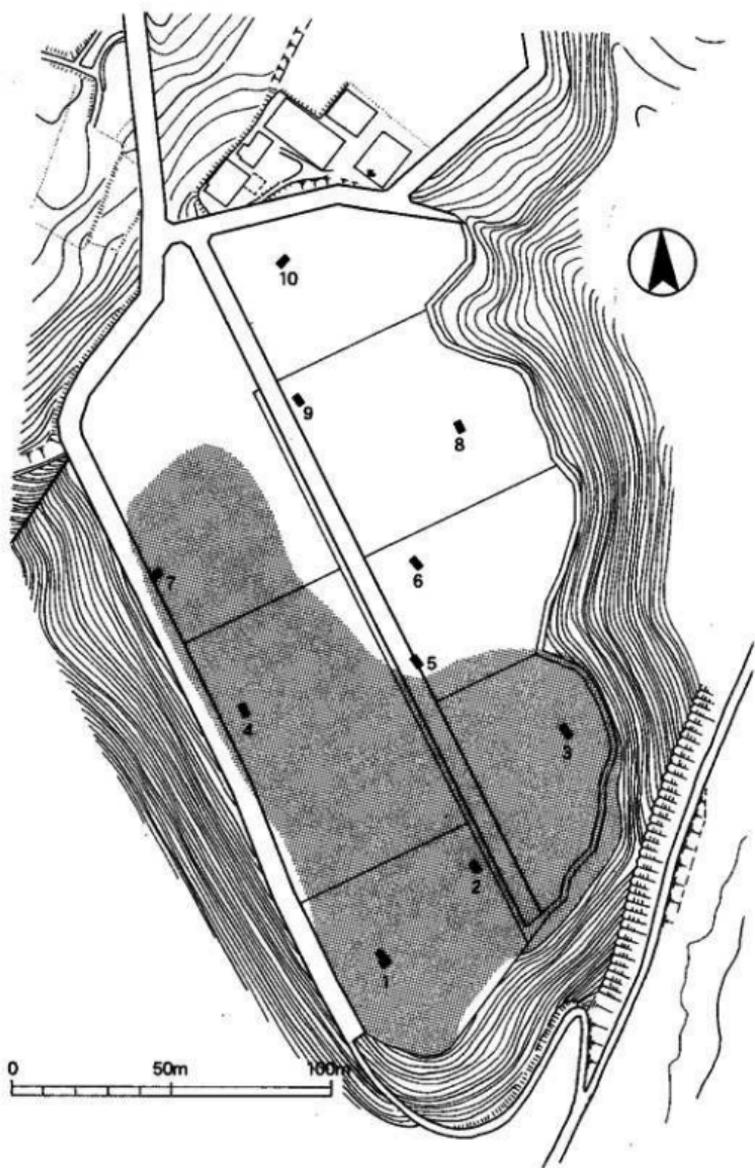
第2図 土層模式柱状図

VIII層 明褐色火山灰層 桜高を起源とする「薩摩」といわれる火山灰に比定される。  
IX層 暗褐色粘質土層 一般にチヨコ層といわれる層である。

I b 層の白色パミスは、桜高の大正の爆発の火山灰で、御池ゴラは霧島を起源としている。  
V a 層の黄白色パミスは、池田カルデラ起源の降下軽石である。宮谷口遺跡及び平山A遺跡の遺物包含層はII層=弥生時代前期とVI層・VII層=縄文時代の早期である。II層については、畑地造成のため、宮谷口遺跡の1トレンチを除いてほとんど削平されている。VI層からは平山A遺跡で平筒式が、宮谷口遺跡で貝殻円筒土器が出土し、VII層からは貝殻円筒土器と貝殻角筒土器が出土している。ある程度土器型式が層位的に把握できる。宮谷口遺跡は台地全体にVI層・VII層が良好に残っており、遺跡も図示した以上に広がる可能性がある。平山A遺跡についてはVI層・VII層の直上ないしはVI層・VII層まで削平されて残存遺跡範囲が小さい。



第3図 富谷口遺跡 地形図及びトレンチ配置図

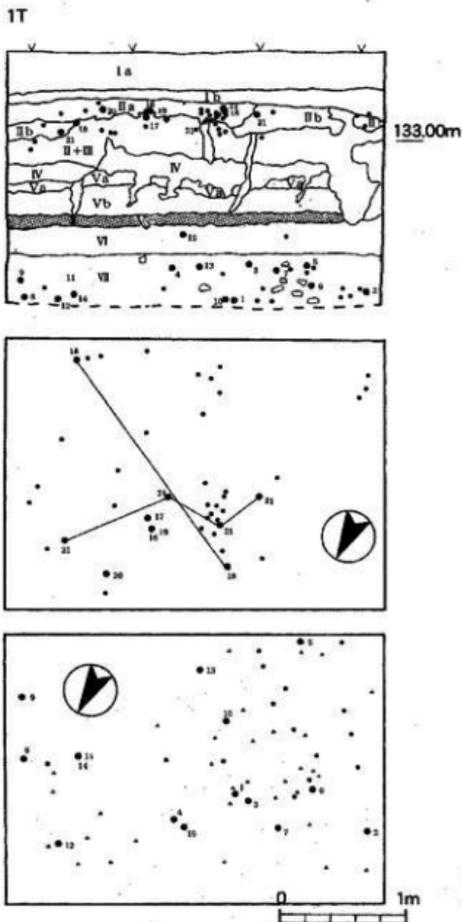


第4図 宮谷口遺跡 施工後の地形図及び遺跡範囲

## 第4章 宮谷口遺跡の調査

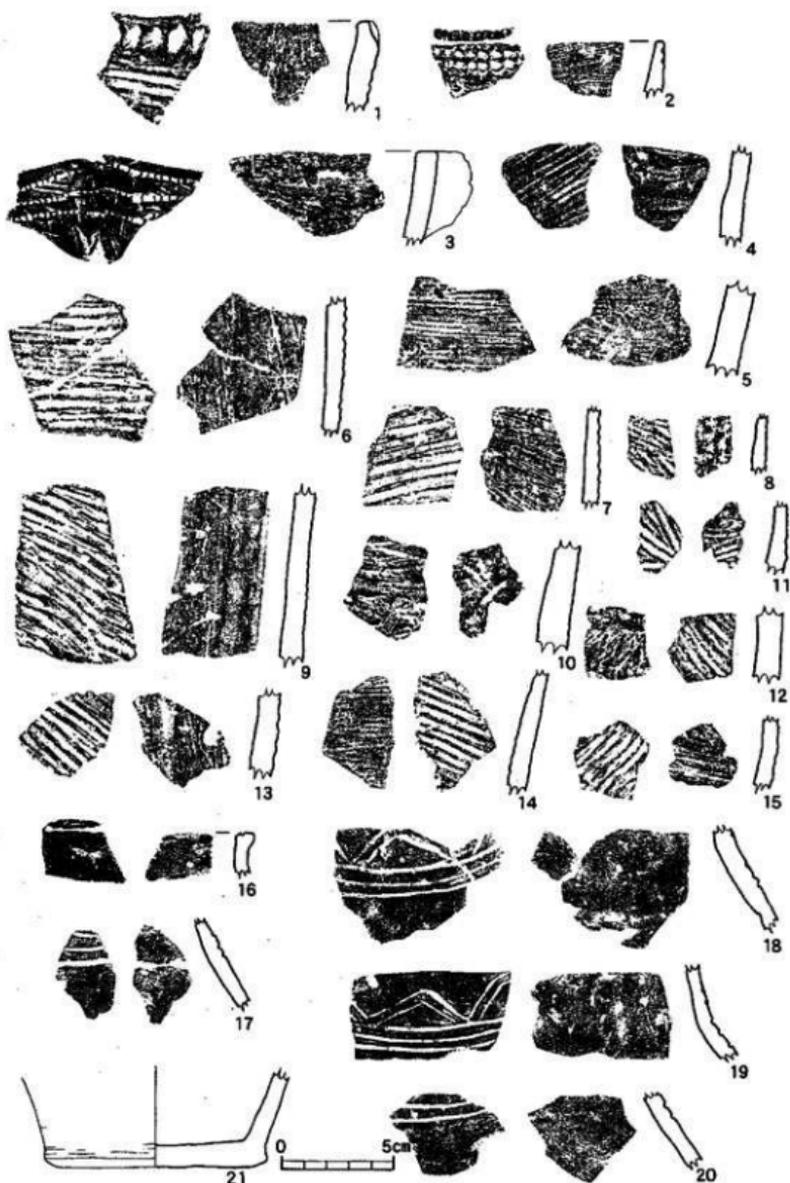
### 第1節 調査の概要

宮谷口遺跡は標高130~134mの南側に舌状に突き出した台地である(第3図)。その台地の先端部から基部へ、1トレンチから10トレンチまで2×4mを基本として任意に設定した。Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳa層で、トレンチにおいては一部削平や攪乱が観察できるが、Ⅳ層から下の地層に関しては良好に保存されている。本遺跡は、縄文時代早期の貝殻土器を主体とする遺跡で、1トレンチでⅡ層から弥生時代前期の土器が出土したが、畑地の造成や耕作のためかなりの影響を受け、弥生時代前期の遺構などの残存状況は良くないと考えられる。周辺の2・3・4トレンチではⅡ層が削平されていることから、これを何うことができる。縄文時代早期の遺物は1・2・3・4・6・7・8トレンチで検出され、遺構は、1・3トレンチで集石遺構が、2・7トレンチで土抗が検出された。5・9・10トレンチで遺物・遺構とも検出されなかったが、Ⅵ層が残っており、遺跡は台地全体に広がるものと考えら

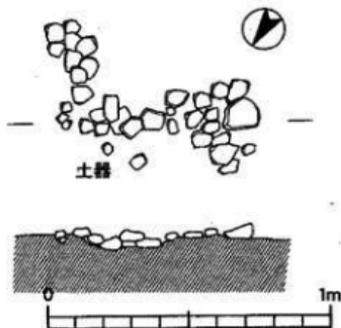


第5図 1トレンチ遺物出土状況及び土層断面図

れる。第3図・第4図においては、特に密度が高い範囲を図示している。北側の部分については、包含層から60cmまでの削平を一部行ったが、基本的には盛土工法とし、特に図示した部分については、すべて盛土工法によって包含層を保存した。



第6圖 1トレンチ出土土器



第7図 1トレンチⅦ層検出集石遺構

にも感じられる。Ⅳ層、Ⅴ層の無遺物層を挟んでⅦ層を中心として、縄文時代早期の土器片、礫が出土した。Ⅶ層からは、集石遺構も検出された。早期の土器は、口縁部が前平式（1）・吉田式（2）・石板式（3）と出土している。1の口縁部はヘラによる刻目である。2は押し引きながら、刻目を施している。3は細い角状の工具で押し引いて3条施す。同一層位ながら、3が一応上位から出土している。胴部についてはほとんどが4・5が条痕土器で、石板式の範疇に含まれる可能性がある。他は前平式のものである。第7図が集石遺構の平面図である。中央部にかすかに掘り込みらしき痕跡が伺えるが、詳細は不明である。石はほとんどがひび割れや赤変など2次加熱された痕跡を残している。

#### 2 トレンチ（第8図～第12図）

台地南側の中央部に、 $2 \times 4$  mで設定した。Ⅰ・Ⅱ層は削平されており、Ⅶ層から前平式の円筒土器と角筒土器が出土した。22～91が円筒土器で外面が貝殻条痕で、内面が工具によるナデで基本的に調整されている。22～28は口縁部で、ヘラ状工具による刻目（23・24・25・27）や貝（22・26・27）による連続刺突を施している。22は内面に条痕を残している。27・28は内面調整が条痕である。29～81は胴部の破片である。43には長円形の補修孔がある。82～90は底部である。いずれも吉田式・前平式・前平B式の特徴である縦位の刻線ははいっていない。小型で、堅緻の感がする。82・85は底にまで条痕を施している。89は放射状に圧痕がある。91は上から見ると僅かに弧を描くので、円筒土器の可能性もある。角筒土器と同様で二重施文がなされている。92～98は角筒土器で貝殻条痕を地文として、貝殻腹縁による刺突文線を施している。前平式である。

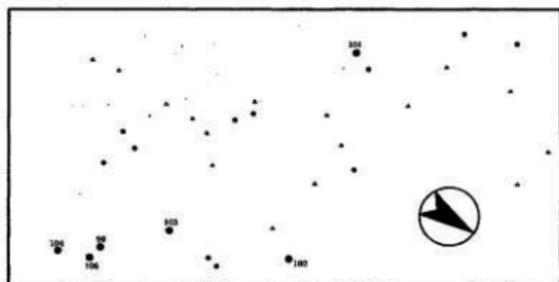
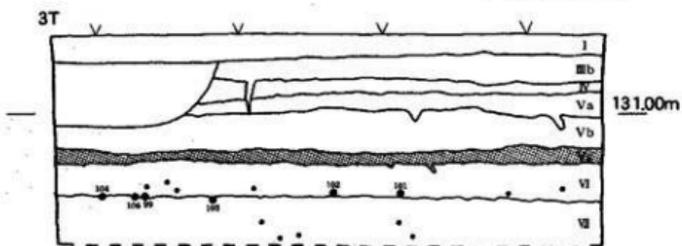
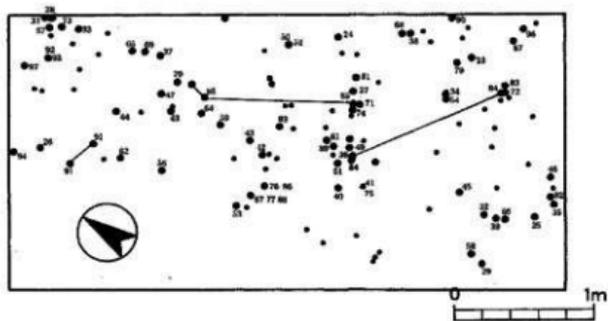
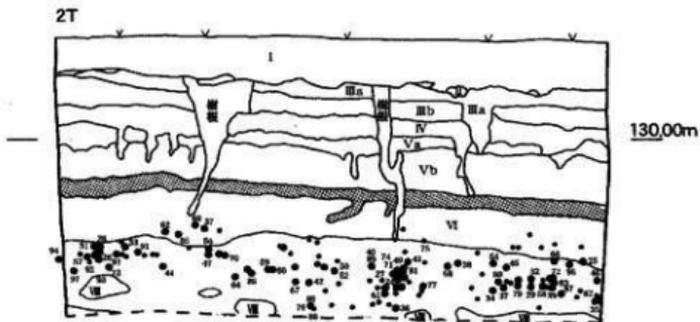
#### 3 トレンチ（第13図～第14図）

台地の南東端に $2 \times 4$  mで設定した。Ⅱ層は削平されている。遺物はⅦ層からⅧ層にかけて出土している。またⅦ層からは、集石遺構が検出されている。遺物（99～106）はいずれも胴

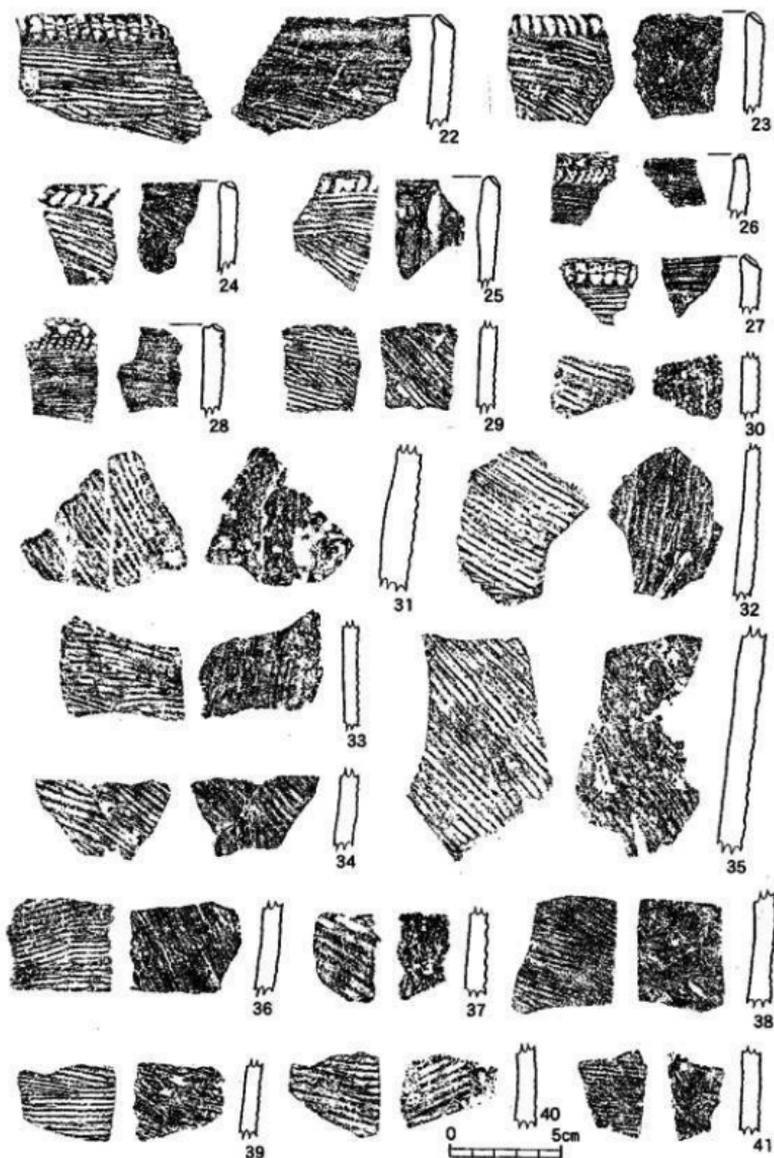
## 第2節 各トレンチの調査

### 1 トレンチ（第5図～第7図）

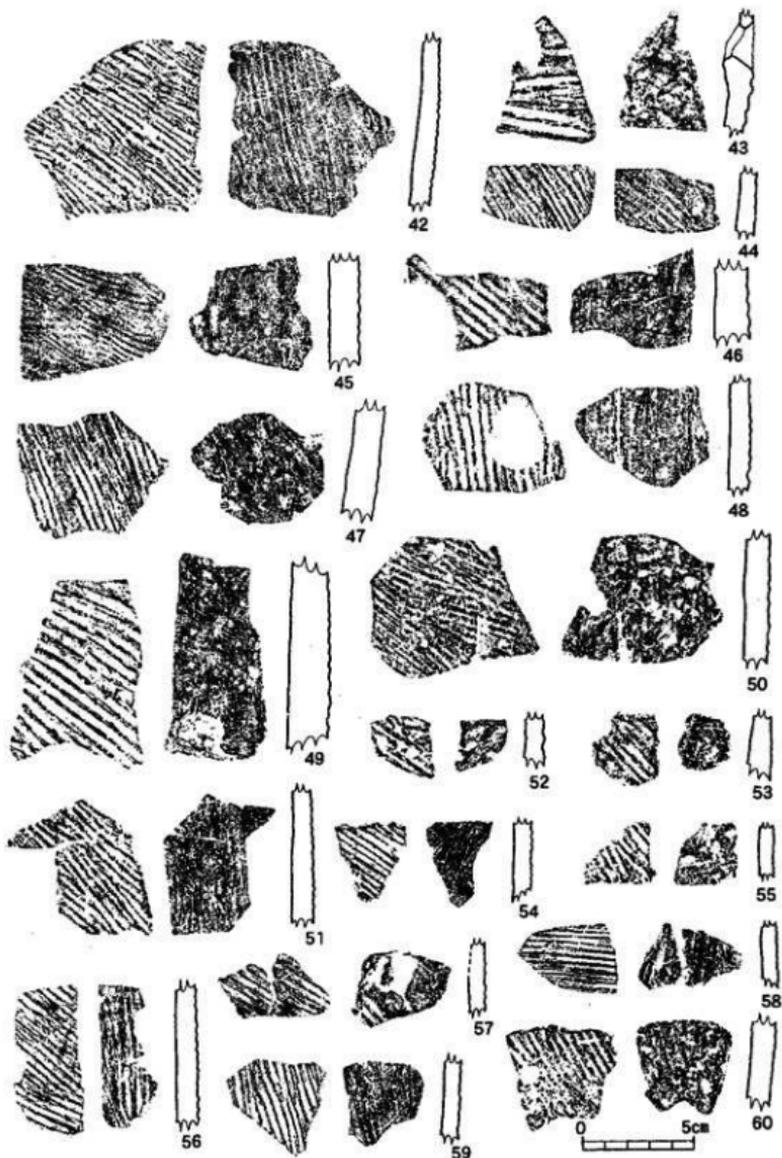
1 トレンチは、台地の南端部に $2 \times 3$  mで設定し掘り下げた。Ⅱ層から弥生時代前期の壺形土器の破片が出土した。16～21はすべて同一個体と判断できる。口縁端部に沈線を1条、肩部に3条の沈線を巡らし、頸部に2条の沈線で鋸歯文が施される。板付Ⅱ式に当たると考えられる。口縁部は直立気味で肩部は張らずスマートな器形で、突帯文土器にともなう壺形土器の器形を踏襲しているよう



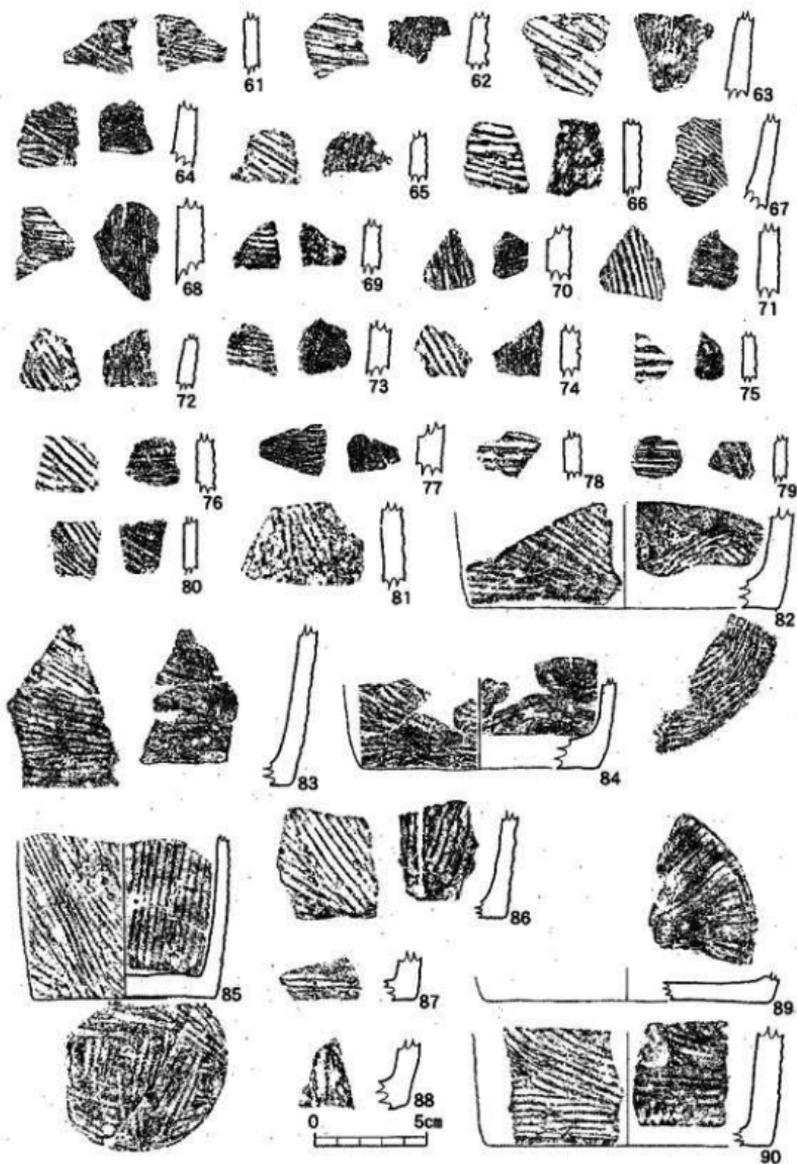
第8図 2トレンチ・3トレンチ遺物出土状況及び土層断面図



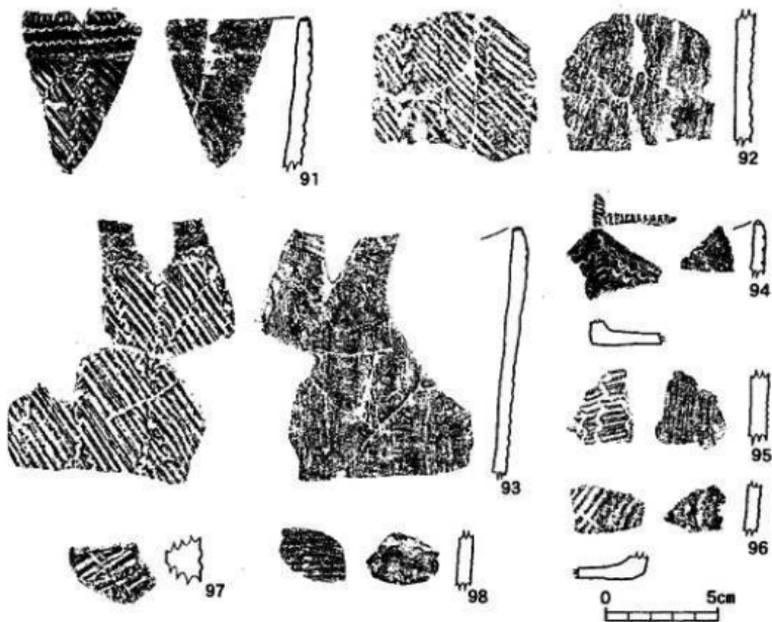
第9図 2トレンチ出土土器 (1)



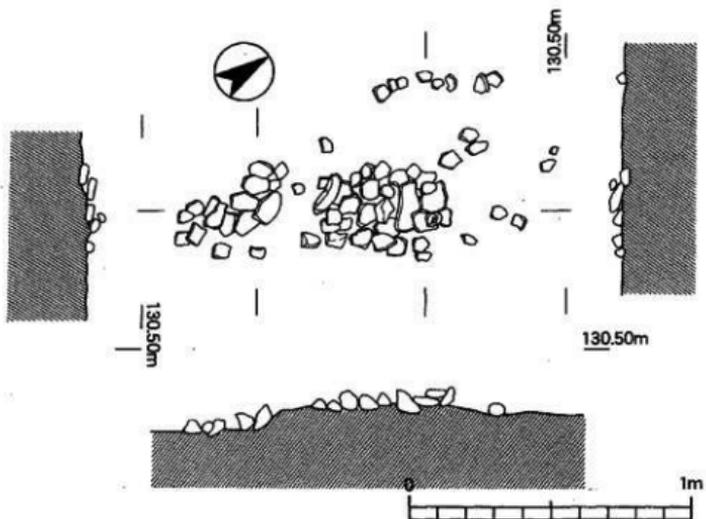
第10図 2トレンチ出土土器 (2)



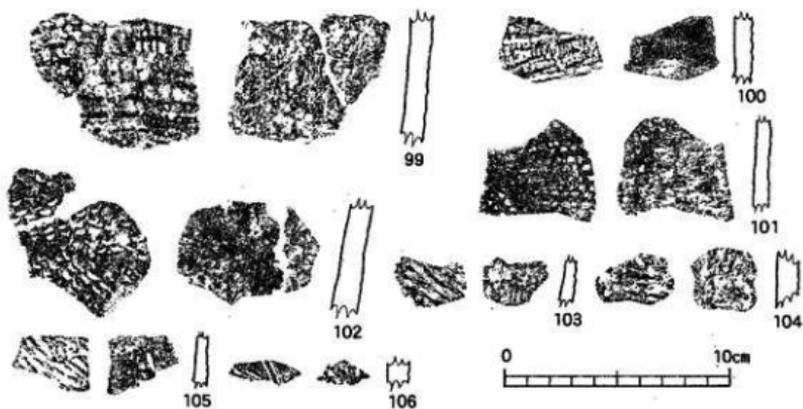
第11図 2トレンチ出土土器 (3)



第12図 2トレンチ出土土器 (4)



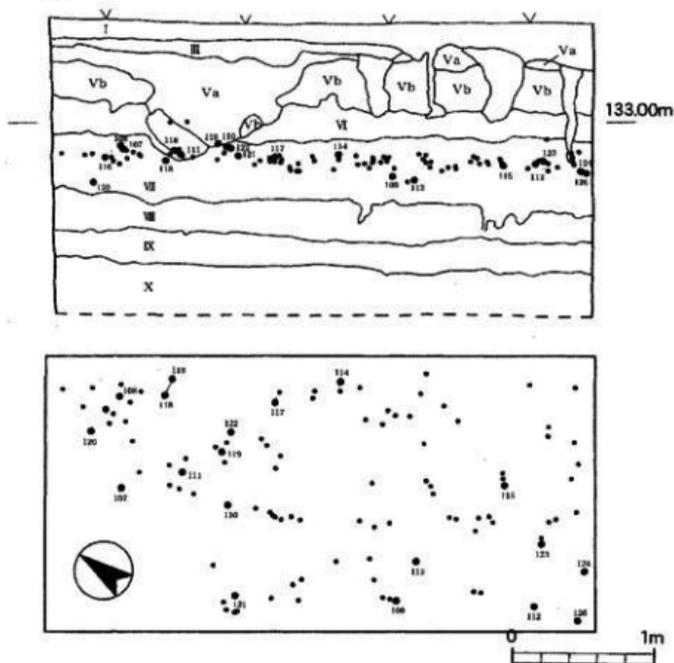
第13図 3トレンチVII層検出集石遺構



第14図 3トレンチ出土土器

部の破片であり、102を除いて貝殻を押し引いている。吉田式である。Ⅷ層上部に検出されている。石器は161・162の黒曜石の石鏃と169の磨石と敵石を兼用したものが出土している。169は2次加熱を受け破砕している。

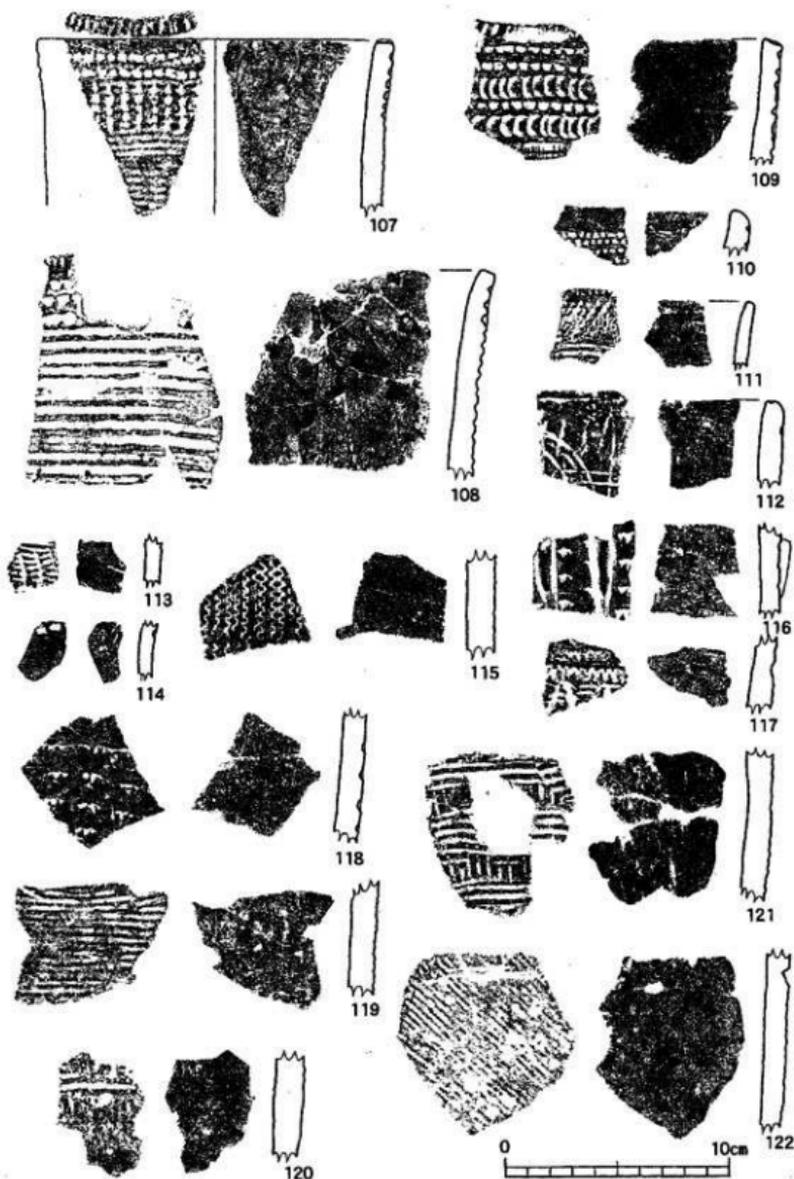
4T



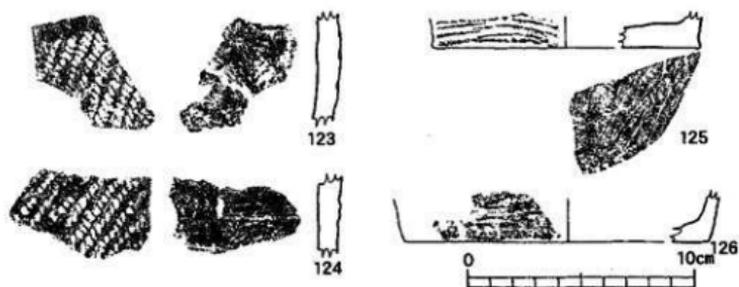
第15図 4トレンチ遺物出土状況及び土層断面図

#### 4トレンチ（第15図～第17図）

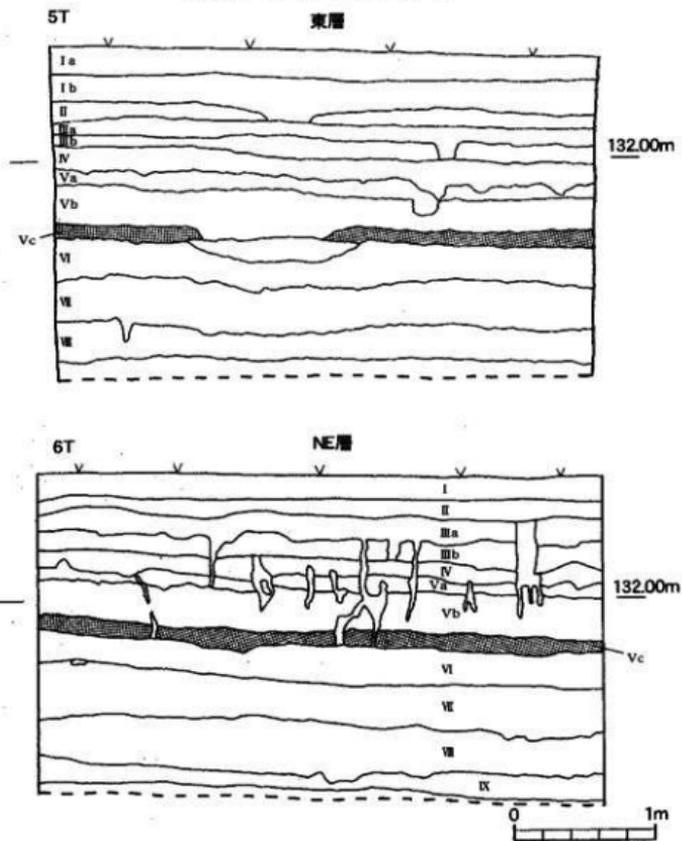
台地の中央部西側に2×4mで設定した。II層・IV層が欠落している。Va層の落ち込みは人為的なものではなかった。遺物はVI層から出土した。出土土器は古田式を主体とする。ほかに押圧縄文の施された土器が出土しており、前平式である可能性もある。107～117は口縁部にあたる。112を除けば、いずれも古田式の特徴をよく表している。107は口縁上面に刻目を施し、外面は横位に2条の貝殻刺突文と、その下に縦位に貝殻刺突文を施文している。108は横位に3条の貝殻刺突文を施し、その下は貝殻による押し引きが顕著である。109は横位の貝殻刺突文と半載竹管状の施文具による文様を組み合わせている。111は薄手で貝殻腹縁による縦位の連続刺突文が施されているが、明瞭でない。112は獅状工具による刺突と曲線文を組み合わせてある。115は縦位に貝殻腹縁を刺突している。116は楔形突帯と、その間に縦方向に刺突を施している。118の刺突文と共通している。118～124は胴部である。121は縦方向の条痕の上に更に横方向に条痕を施している。123・124は押圧縄文である。125・126は底部で126は縦方向に条痕が施される。



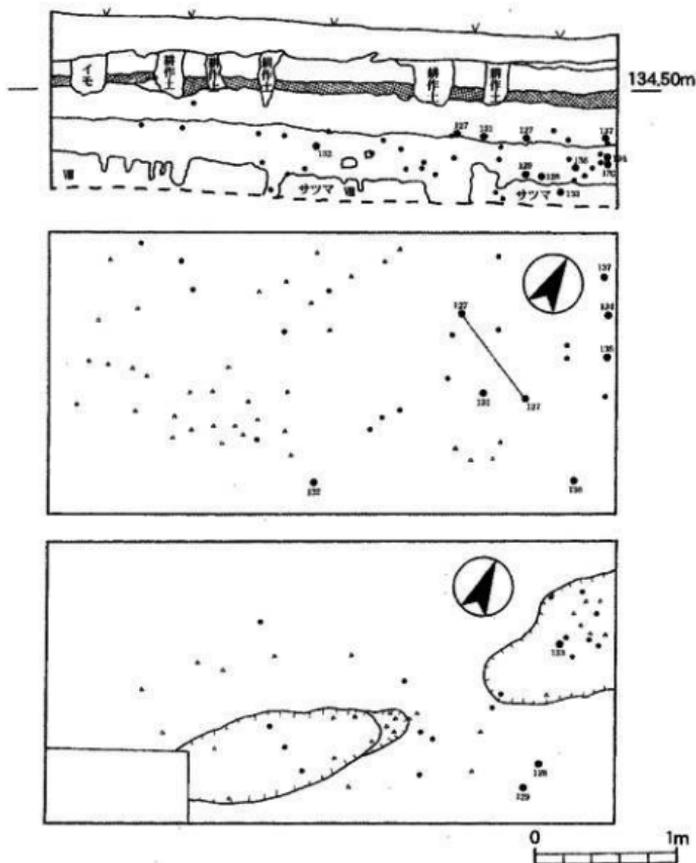
第16圖 4トレンチ出土土器 (1)



第17図 4トレンチ出土土器 (2)



第18図 5トレンチ・6トレンチ土層断面図



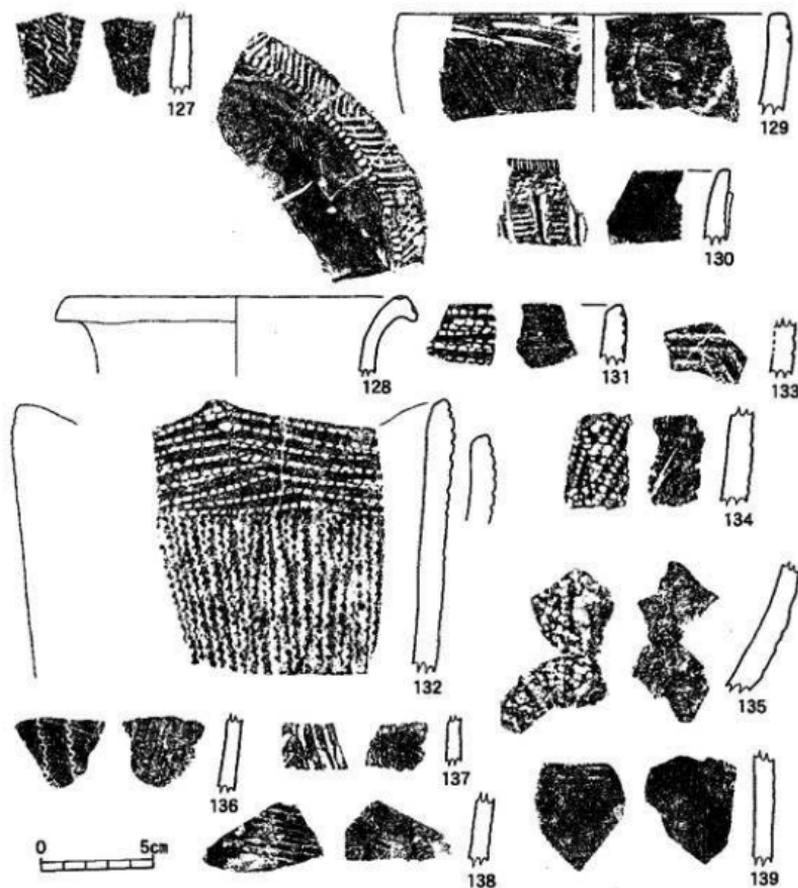
第19図 7トレンチ遺物出土状況及び土層断面図

5トレンチ・6トレンチ (第18図)

5トレンチは遺物は出土せず、6トレンチのⅡ層から土器片が1点出土した。土器は細片であって図示できなかった。いずれも表層から基盤層まで堆積し、これらのトレンチでは確認されなかったものの、周辺に縄文時代早期の含有層が良好に保存されている可能性が高い。これらが宮谷口遺跡の基本層位となったものである。

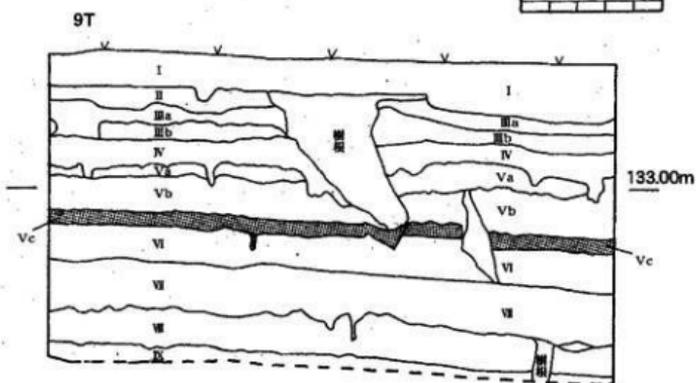
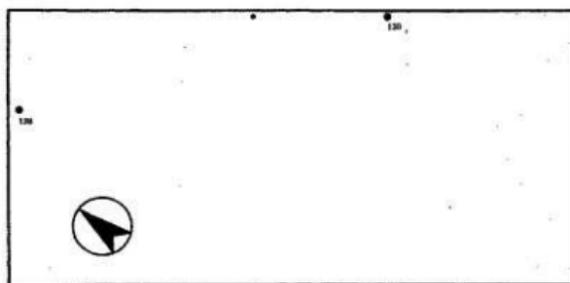
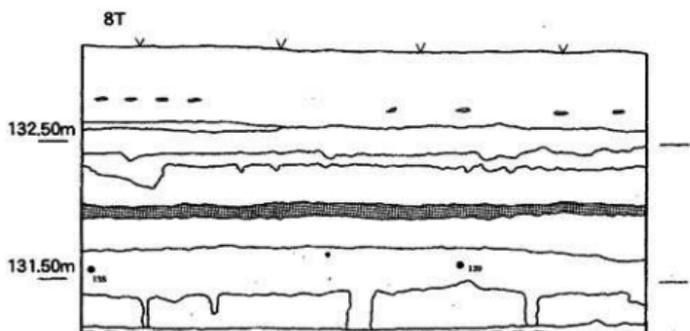
7トレンチ (第19図～第20図)

7トレンチはⅡ層からⅣ層が削半されている。遺物出土状況は上がⅡ層上面で、下がⅢ層上面の遺物出土状況である。いずれの層でも、2次加熱を受けたと考えられる碟が出土したが、



第20図 6トレンチ・7トレンチ・8トレンチ出土土器

集石遺構にはなりきれず、ばらけた状況であった。その位置は△で表示した。いずれの層も、そのレベルが大方共通することから生活面に近いことが予想され、縄文時代早期の2時期にわたって形成されたことがうかがわれる。Ⅳ層上面においては、Ⅳ層土の落ち込みが検出された。性格については確認するには至らなかったようである。2文化層が存在することは、縄文時代早期の上器編年を確定することのできる遺跡である可能性を示している。7トレンチにおいては、Ⅵ・Ⅳ層から縄文時代早期の遺物が出土している。128は薄手で丁寧に成型されており、このまま胴部が下がって円筒形をなす可能性もあるが、壺形土器である可能性が高い。壺形土器だとすると、最近縄文時代早期後半にあたる時期で出土例が増えているが、口縁端が下垂す



第21図 8トレンチ遺物出土状況及び8トレンチ・9トレンチ土層断面図

る例は珍しい。129は、口縁部に短沈線を施す円筒土器と思われる。130は吉田式土器である。131・132・134・135・136は石坂系土器といわれるものである。条痕は施されずに貝殻の刺突線文で全体を飾っている。133は条痕のうえに貝殻の刺突線文を施すもので、前平式土器である。層位的には、石坂系土器が、上位から出土している。またこのトレンチからは磨石、敷石が出土しているが、ほとんどが加熱されて完形品はまれである。

#### 8 トレンチ (第20図・第21図)

台地の北東側に2×4mで設定した。土層はⅡ層が欠けているが、全体的に残りが良い。Ⅳ層から土器片が数点出土した(138・139)。いずれも土器型式は不明である。

#### 9 トレンチ (第21図)

中央部分の北よりに、2×4mで設定し掘り下げた。遺物の出土はなかったが、削平がなされていない。

### 第3節 小結

以上の結果をまとめると下表のようになる。

第2表 宮谷口遺跡トレンチ別一覧

宮谷口遺跡 調査面積計86m<sup>2</sup>

トレンチ No.	調査面積	遺物包含層	遺構の有無	表土直下 の土層	遺物包含層 までの深さ	出土遺物 その他
1	14m <sup>2</sup>	Ⅱ層・Ⅳ層	有	Ⅱ層	-40cm	弥生前期土器・縄文早期土器・石器・集石遺構
2	8m <sup>2</sup>	Ⅳ層	有	Ⅲa層	-150cm	縄文早期土器・石器・土壙
3	8m <sup>2</sup>	Ⅳ層	有	Ⅲb層	-100cm	縄文早期土器・石器・集石遺構
4	8m <sup>2</sup>	Ⅳ層	有	Va層	-100cm	縄文早期土器・石器
5	8m <sup>2</sup>	無	無	Ⅱ層	——	
6	8m <sup>2</sup>	Ⅳ層	無	Ⅱ層	-150cm	縄文早期土器
7	8m <sup>2</sup>	Ⅵ・Ⅳ層	有	Vb層	-50cm	縄文早期土器・石器・土壙
8	8m <sup>2</sup>	Ⅳ層	無	Ⅳ層	-150cm	縄文早期土器
9	8m <sup>2</sup>	無	無	Ⅱ層	——	
10	8m <sup>2</sup>	無	無	Ⅲa層	——	

出土した遺物は弥生時代前期の土器が1トレンチで出土したほかは、すべて縄文時代早期の土器片や石器であって、縄文時代早期の良好な遺跡である。1・2トレンチで前平式土器が出土し、3・4・5トレンチで吉田式が出土し、7トレンチで石坂系土器が出土し、各土器型式によってエリアが異なっていた可能性がある。これはまた各型式間に時期差が存在する傍証ともいえよう。7トレンチでは2枚の文化層が確認できた。他のトレンチにおいても、わずかに数型式が混ざっているところもあり、地点によっては遺構の切り合い関係や、2・3枚の文化層が把握される可能性がある。縄文時代早期の土器編年を考える上からは、その解決の糸口が眠っているわけである。

第3表 宮谷口遺跡土器観察表(1)

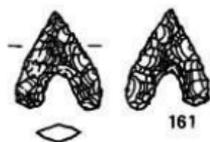
持区番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考	
第 6 区	1	2T	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗褐色	貝殻条痕、ヘラ刷目	工具ナデ		
	2		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黒褐色、暗褐色	ナデ、刷目・刺突	条痕		
	3		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄灰色	貝殻条痕、工具押し跡	工具ナデ	コブ付き	
	4		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	灰白色	貝殻条痕	工具ナデ		
	5		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黒褐色	条痕	ナデ		
	6		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄白色	貝殻条痕	ナデ		
	7		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗褐色	貝殻条痕	条痕		
	8		Ⅶ	石英・長石		良好	褐色	貝殻条痕	条痕		
	9		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	10		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡灰褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	11		Ⅶ	石英・長石・砂粒		良好	赤褐色	条痕	条痕		
	12		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄灰色	条痕	条痕		
	13		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	14		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡赤褐色	条痕	貝殻条痕		
	15		Ⅵ	石英・長石・角閃石		良好	黄灰色	貝殻条痕	条痕		
	16		Ⅱ	石英・長石・角閃石・細砂粒		良好	黄白色	ヘラミガキ、沈層	ナデ		
	17										
	18										
	19										
	20										
	21										
第 9 区	22	2T	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄灰色	貝殻条痕、連続刺突(貝)	ナデ・工具ナデ		
	23		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡赤褐色	貝殻条痕、刷目(ヘラ)	工具ナデ		
	24		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黒褐色	貝殻条痕、刷目(ヘラ)	工具ナデ		
	25		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡褐色	貝殻条痕、刷目(ヘラ)	工具ナデ		
	26		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黒褐色、茶褐色	貝殻条痕、連続刺突(貝)	工具ナデ		
	27		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	褐色	貝殻条痕、刷目(ヘラ)	条痕		
	28		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗褐色	条痕、刷目、連続刺突(貝)	条痕		
	29		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	灰白色	貝殻条痕	貝殻条痕		
	30		Ⅶ	石英・長石・砂粒多い		良好	暗褐色	貝殻条痕	不明		
	31		Ⅶ	石英・長石・角閃石		やや不良	黄灰色	貝殻条痕	不明		
	32		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	茶褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	33		Ⅶ	石英・長石		良好	灰白色	貝殻条痕	工具ナデ		
	34		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	赤褐色	貝殻条痕	貝殻条痕		
	35		Ⅶ	石英・長石・角閃石・砂粒多い		良好	暗褐色、赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	36		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗褐色	貝殻条痕	工具ナデ		
	37		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡黄褐色	貝殻条痕	不明		
	38		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	淡褐色	貝殻条痕	不明		
	39		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	褐色	貝殻条痕	条痕		
	40		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	褐色	貝殻条痕	貝殻条痕		
	41		Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄灰色	貝殻条痕	不明		
42	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
43	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	灰褐色	貝殻条痕	不明	穿孔有り			
44	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
45	Ⅶ	石英・長石・角閃石・砂粒多い		良好	赤褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
46	Ⅶ	石英・長石・角閃石		やや不良	黄灰色	貝殻条痕	工具ナデ				
47	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	暗褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
48	Ⅶ	石英・長石・角閃石		良好	黄褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
49	Ⅶ	石英・長石・角閃石・砂粒多い		良好	淡黄褐色	貝殻条痕	工具ナデ				
50	Ⅶ	石英・長石・角閃石		やや不良	黄灰色	貝殻条痕	不明				

第4表 宮谷口遺跡土器觀察表(2)

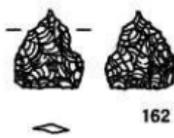
神田番号	遺物番号	出土区	層	胎	土	焼成	色調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第10図	51	2T	Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黄白色	貝殻条痕		工具ナデ	
	52		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	淡褐色	貝殻条痕		不明	
	53		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黄白色	貝殻条痕		工具ナデ	
	54		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	55		Ⅶ	石英・長石・砂粒	良好	暗灰色	貝殻条痕		工具ナデ	
	56		Ⅶ	石英・長石	良好	黒褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	57		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	淡褐色	貝殻条痕		不明	
	58		Ⅶ	石英・長石	良好	暗赤褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	59		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	60		Ⅶ	石英・長石・角閃石	やや不良	淡黄褐色	貝殻条痕		条痕	
第11図	61	2T	Ⅶ	石英・長石・砂粒	良好	褐色	貝殻条痕		条痕	
	62		Ⅵ	石英・長石・角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	63		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黒褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	64		Ⅵ	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕		ナデ	
	65		Ⅵ	石英・長石・角閃石	良好	褐色	貝殻条痕		不明	
	66		Ⅶ	石英・長石	やや不良	黄灰色	貝殻条痕		不明	
	67		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	褐色	貝殻条痕		剥落	
	68		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	灰褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	69		Ⅵ	石英・長石	良好	淡褐色	貝殻条痕		不明	
	70		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黄褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
第12図	71	2T	Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	72		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	淡褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	73		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	褐色・黒褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	74		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	暗灰色	貝殻条痕		工具ナデ	
	75		Ⅵ	石英・長石	良好	黒褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	76		Ⅶ	石英・砂粒	良好	黄褐色・黒色	貝殻条痕		貝殻条痕	
	77		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黄褐色	条痕		ナデ	
	78		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黒褐色	貝殻条痕		不明	
	79		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	茶褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	80		Ⅶ	石英・長石	良好	暗褐色	貝殻条痕		条痕	
第13図	81	2T	Ⅶ	石英・長石・角閃石	やや不良	淡褐色	条痕		剥落	
	82		Ⅶ	石英・長石	良好	淡赤褐色	貝殻条痕		貝殻条痕	
	83		Ⅶ	石英・長石	良好	赤褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	84		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	85		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕		貝殻条痕	
	86		Ⅶ	石英・長石・砂粒	良好	赤褐色	貝殻条痕		工具ナデ	
	87		Ⅵ	石英・長石・砂粒	良好	黄褐色	貝殻条痕		ナデ	
	88		Ⅶ	石英・長石	良好	黒褐色	条痕		不明	
	89		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	黄灰色	ナデ		貝殻条痕	
	90		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻条痕		貝殻条痕	
第14図	91	3T	Ⅶ	石英・長石	良好	暗褐色	貝殻条痕、刻目、貝殻條線刺突		工具ナデ	
	92		Ⅶ	石英・長石・角閃石	良好	暗褐色	貝殻条痕、貝殻條線刺突		工具ナデ	角筒
	93		Ⅵ	石英・長石・角閃石	良好	黒褐色	貝殻条痕、刻目、貝殻條線刺突		工具ナデ	角筒
	94		Ⅶ	石英・長石	良好	褐色	刻目、貝殻條線刺突		工具ナデ	角筒
	95		Ⅵ	石英・長石・砂粒	良好	褐色	貝殻条痕、貝殻條線刺突		工具ナデ	角筒
	96		Ⅵ	石英・長石	やや不良	黄白色	貝殻条痕		工具ナデ	角筒
	97		Ⅶ	石英・長石	良好	茶褐色	貝殻条痕		不明	
	98		Ⅶ	石英・長石・砂粒	良好	暗褐色	貝殻条痕		不明	
99	3T	Ⅵ下	石英・長石・角閃石・砂粒多い	良好	赤褐色	押し引き		不明		
100	3T	Ⅵ下	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	貝殻押し引き		ナデ		

第5表 宮谷口遺跡土器観察表(3)

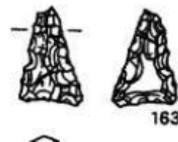
押圖書号	遺物番号	出土区	層	胎	土	烧成	色	調	外面調整(文様)	内面調整	備考
第14 図	101	3T	VII上	V	石英・長石・角閃石	良好	黄白色		貝殻押し引き	ナデ	
	102				石英・長石・金雲母・砂礫多	良好	赤褐色		貝殻腹縁刺突	工具ナデ	
	103		VII上	V	石英・長石・角閃石	良好	黄白色		貝殻押し引き	不明	
	104				石英・長石	良好	淡褐色		貝殻押し引き	工具ナデ	
	105		VII下	V	石英・長石・角閃石	良好	暗灰色		貝殻押し引き	工具ナデ	
	106				石英・長石・角閃石	良好	灰色		沈線	不明	
第16 図	107	4T	VII	V	石英・長石・角閃石	良好	黄白色		貝殻押し引き、割目・櫛状工具刺突	不明	
	108				石英・長石・金雲母	良好	赤褐色		貝殻押し引き、割目・刺突(貝)	ナデ	
	109				石英・長石・金雲母	良好	褐色		押し引き、割目・刺突(半散竹管状具)	ナデ	
	110				石英・長石・角閃石	良好	淡褐色		刺突(櫛状工具)	ナデ	
	111				石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		押し引き、割目・貝殻腹縁刺突	ナデ	
	112				石英・長石	良好	灰白色		沈線・刺突(櫛状)	ナデ	
	113				石英・長石・角閃石	良好	黒褐色		貝殻押し引き	ナデ	
	114				石英・長石・角閃石	良好	黒褐色		ナデ・刺突	ナデ	
	115				石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		貝殻腹縁刺突	ナデ	
	116				石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		ナデ・刺突(貝)・櫛状縦位突帯	工具ナデ	
	117				石英・長石・角閃石	良好	黄褐色		貝殻押し引き、貝殻腹縁刺突	不明	
	118				石英・長石・角閃石	良好	黄褐色		ナデ・刺突(貝)	工具ナデ	
	119				石英・長石・角閃石	良好	黄灰色		貝殻押し引き	不明	
	120				石英・長石・角閃石	良好	黄褐色		貝殻押し引き	ナデ	
121	石英・長石・角閃石	良好	黄灰色		条痕	ナデ					
122	石英・長石	良好	黄灰色		条痕	不明					
第17 図	123				石英・長石・金雲母	良好	淡褐色		押圧縄文	工具ナデ	
	124				石英・長石・金雲母	良好	褐色		押圧縄文	工具ナデ	
	125				石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		貝殻条痕	工具ナデ	
	126				石英・長石・角閃石	良好	黄白色		条痕	剥落	
第20 図	127	6T	VII	V	石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		貝殻条痕、貝殻腹縁刺突	工具ナデ	角筒
	128	7T	VI	石英・長石・角閃石	良好	淡黄褐色		ナデ	工具ナデ、短沈線		
	129			石英・長石・角閃石	良好	黄白色		貝殻条痕、短沈線	工具ナデ		
	130	VII	V	石英・長石	良好	暗褐色		貝殻条痕、割目・貝殻腹縁刺突、櫛状縦位突帯	工具ナデ		
	131			石英・長石・角閃石	良好	黄灰色		貝殻腹縁刺突	ナデ		
	132	VII	V	石英・長石・角閃石	良好	淡赤褐色		押し引き・貝殻腹縁刺突	ナデ		
	133			石英・長石・角閃石	良好	黄灰色		貝殻腹縁刺突	不明		
	134	VII	V	石英・長石・角閃石	良好	黄灰色		貝殻腹縁刺突	工具ナデ		
	135			石英・長石・角閃石	良好	赤褐色		刺突(貝)	工具ナデ		
	136	VII	V	石英・長石・角閃石	良好	淡赤褐色		貝殻腹縁刺突	工具ナデ		
	137			石英・長石・角閃石	良好	淡褐色		貝殻押し引き	不明		
	138	8T	VII	石英・長石・角閃石	良好	黒褐色		条痕	不明		
	139			石英・長石・角閃石	良好	淡褐色、暗灰色		貝殻条痕	工具ナデ		



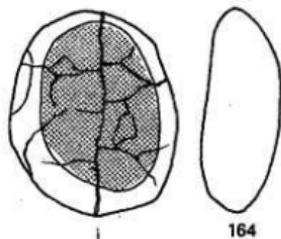
161



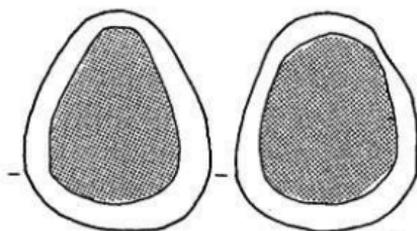
162



163



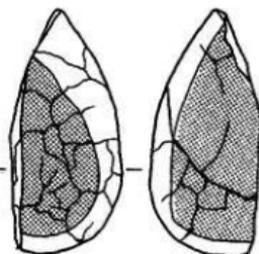
164



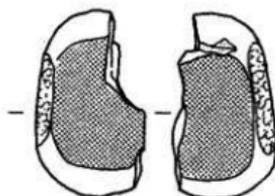
165



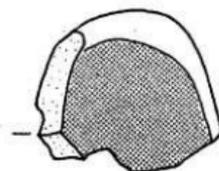
166



168



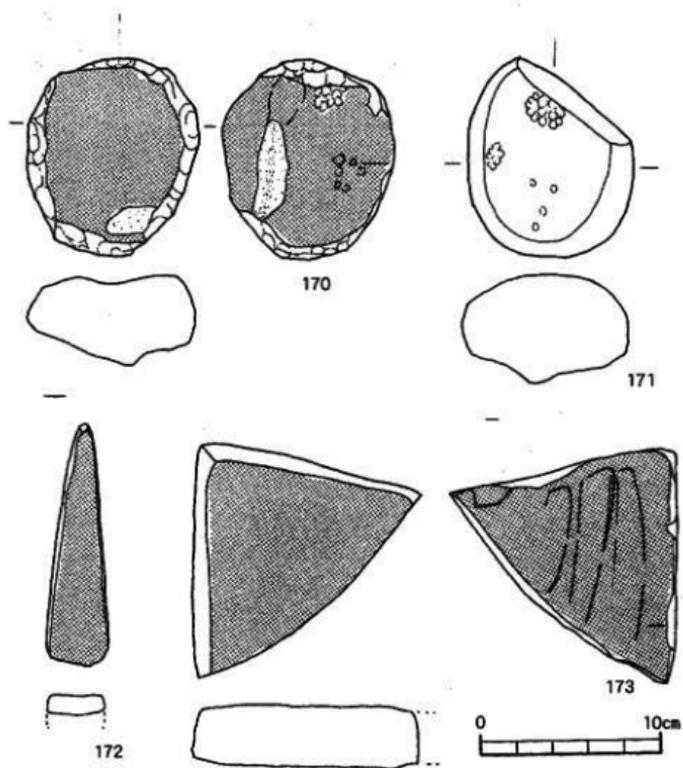
169



167



第22回 富谷口遺跡・平山A遺跡出土石器 (1)



第23圖 宮谷口遺跡出土石器 (2)

## 第5章 平山A遺跡の調査

### 第1節 調査の概要(第22図)

平山A遺跡の調査は宮谷口遺跡の確認調査終了後に平成元年8月25日から調査を行った。平山A遺跡は南北へ伸びる標高180m前後の尾根状の地形で、尾根の先端部分で高所にあたる場所に、1トレンチを設定し掘り下げたところ、縄文時代早期の遺物が出土したために、遺跡範囲の確定のため随時2トレンチから設定して行った。2トレンチで縄文時代早期の遺物が出土したが、3トレンチ・4トレンチ・5トレンチと遺物・遺構ともに検出されず、遺跡範囲は狭い範囲であった。土層の堆積状況は宮谷口遺跡と同じであるがⅡ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層が削平を受けているところが多く、縄文時代前期以降については包含層は残っていないものと考えられる。調査範囲の尾根の中央部に6トレンチを設定し、北側のややひろがった平坦部に7トレンチ・8トレンチ・9トレンチを設定し、それぞれを掘り下げた。7トレンチ・8トレンチは、表土の下にすぐにシラスがありⅩ層から上位はすべて削平され、9トレンチはⅥ層から上位が削平されており、いずれも遺物・遺構ともに検出されなかった。

### 第2節 各トレンチの調査

#### 1トレンチ(第24図・第25図)

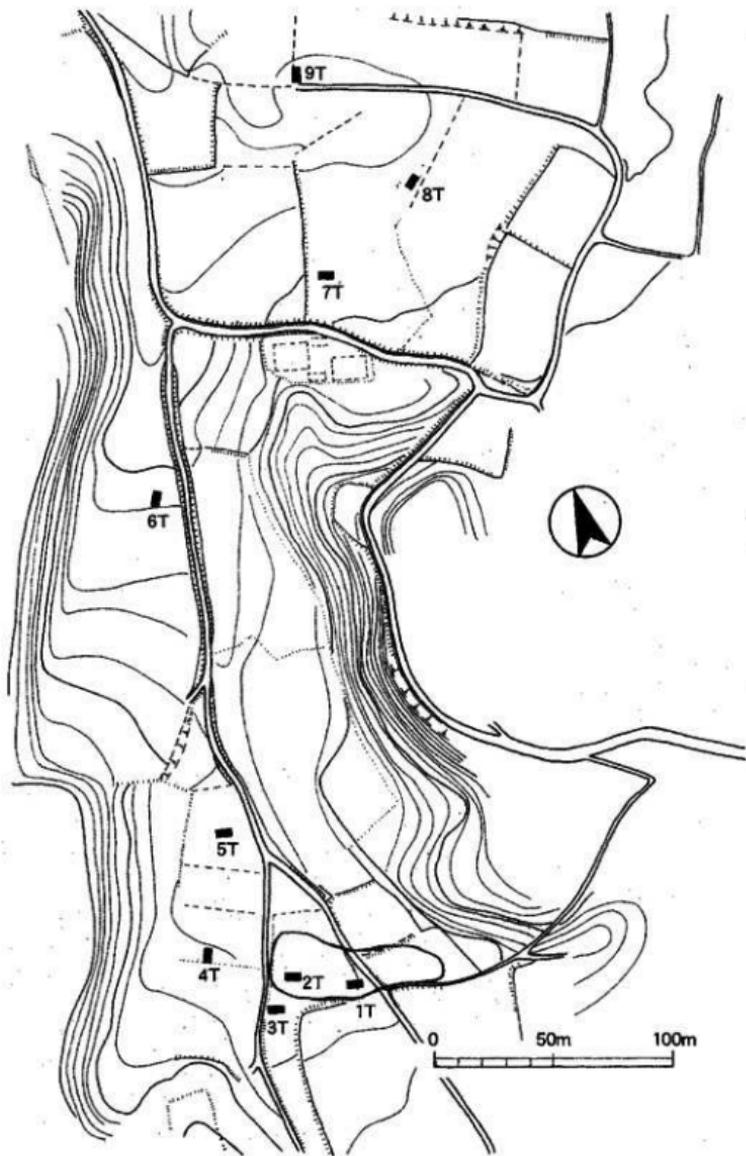
1トレンチはⅤ層=アカホヤ層から上位が削平されている。遺物はⅥ層を中心に出土した。140~154が1トレンチから出土した土器である。140は、宮谷口遺跡の7トレンチで出土した土器に、文様の構成、器形ともにいる。壺形土器の可能性が高いと考えられる。141~148は結節縄文を押しつけた土器片である。144・145・146は同一個体であろう。152が貝殻条痕を押し引いたものであり、吉田式に入る可能性があるが、他の破片は平格式のものであろう。154は底部である。

#### 2トレンチ(第24図・第25図)

2トレンチは、1トレンチの西のほぼ同一レベルの掘りに設定した。Ⅱ・Ⅲ層が削平され、Ⅳ・Ⅴ層が一部で攪乱している。Ⅵ層以下は残存しており、このⅥ層から縄文時代早期の土器が出土した。155~160が出土した土器である。157・158は沈線と刺突文と微隆突帯を組み合わせたもので、平格式に特徴的な文様である。1トレンチと同じくほとんどが平格式にあたるものと考えられる。Ⅷ層上面でトレンチの南側にⅥ層土の落ち込みを検出している。遺構かどうかは不明である。

#### 3~9トレンチ(第26図)

3トレンチ以降は、南から北に向かって設定して行った。3トレンチはⅥ層をわずかに残すのみで、その上位が削平されている。4トレンチはⅧ層から上位を、5トレンチはⅤ層から上位を、6トレンチはⅥ層から上位を、7トレンチはⅩ層から上位を、8トレンチはⅥ層から上位を、9トレンチはⅧ層から上位を、それぞれに攪乱・削平を受けている。尾根を削って畑地を造成したためのものであろう。縄文時代早期の包含層が残存する可能性は少ない。いずれも遺物・遺構ともに検出されていない。

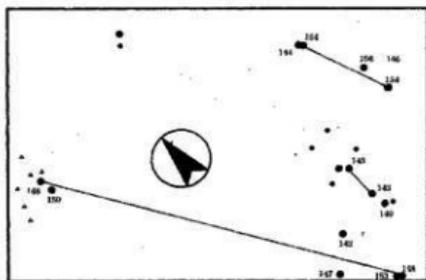
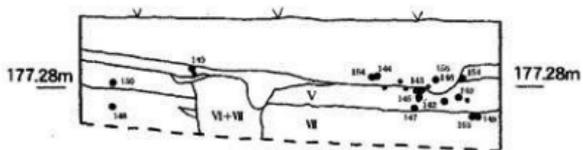


第24図 平山A遺跡 地形図及びブトレンチ配置図

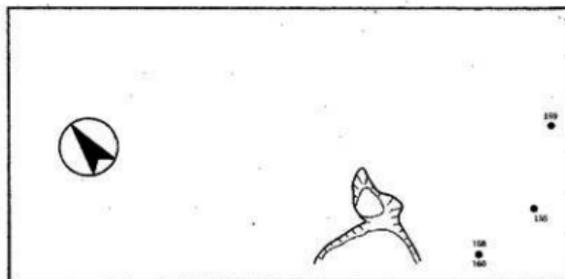
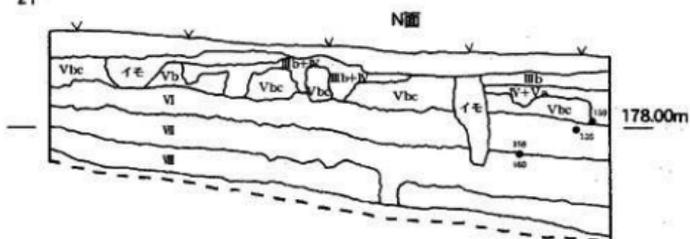


第25図 平山A遺跡 施工後の地形図及び遺跡範囲

1T

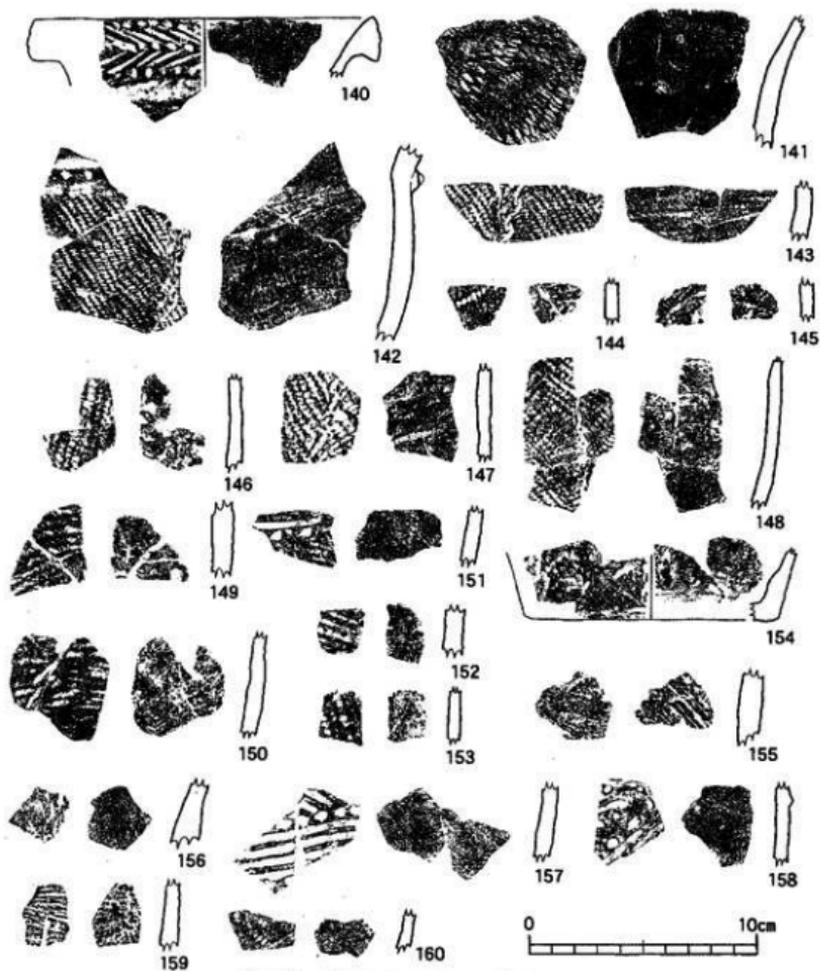


2T

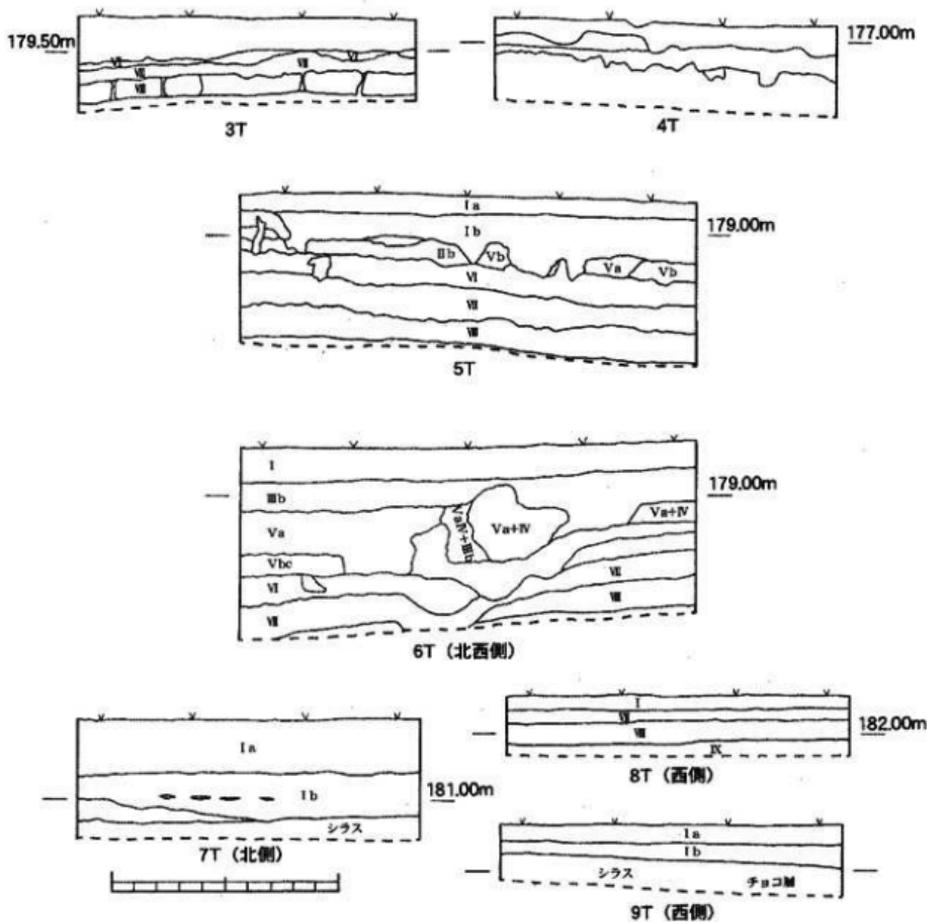


0 1m

第26図 1トレンチ・2トレンチ遺物出土状況及び土層断面図



第27図 1トレンチ・2トレンチ出土土器



第28図 平山A遺跡 その他のトレンチ土層断面図

### 第3節 小結

平山A遺跡は、畑地造成のために、縄文時代早期に該当する地層がわずかに残されているだけで、面的に押さえられるのは、1トレンチ・2トレンチを中心に狭い範囲であった。縄文時代早期該当層から出土したのは、平樽式を中心とした土器であった。石器はわずかに163の石鏃が表採されたのみである。

第6表 平山A遺跡土器観察表

押圖書号	遺物番号	出土区	層	胎 土	焼成	色 調	外面調整(文様)	内面調整	備 考
第 27 号	140	1T		石英・長石・角閃石・金雲母	良好	赤褐色	ナデ、沈線、円形刺突	ナデ	
	141			石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	楕円押型文	ナデ	
	142	VI		石英・長石・角閃石	良好	黄白色	ナデ、突帯、結縷斜縄文	ナデ	
	143			石英・長石	良好	暗褐色	ナデ、結縷斜縄文	工具ナデ	
	144	表		石英・長石・金雲母	良好	暗褐色	ナデ、結縷斜縄文	ナデ	
	145								
	146	表							
	147								
	148	VI		石英・長石・角閃石・砂粒	良好	黄灰色	ナデ、結縷斜縄文	ナデ	
	149	表		石英・長石・金雲母	良好	褐色	ナデ、結縷斜縄文	ナデ	
	150	表		石英・長石・砂粒	良好	灰白色	ナデ	不明	
	151			石英・長石・角閃石	良好	淡褐色	ナデ、縄文	工具ナデ	
	152	表		石英・長石・金雲母	良好	赤褐色	ナデ	ナデ	
	153			石英・長石・金雲母	良好	暗褐色	ナデ、押し引き	不明	
	154	VI		石英・長石・金雲母	良好	暗褐色	ナデ、縄文	ナデ	
	155	表		石英・長石・金雲母	良好	暗褐色	ナデ	ナデ	
	156			石英・長石・角閃石・金雲母	良好	褐色	条痕	ナデ	
	157	表		石英・長石・角閃石	良好	赤褐色	ナデ	ナデ	
158			石英・長石・角閃石	良好	淡赤褐色	ナデ、沈線	ナデ		
159	VI		石英・長石・金雲母	良好	褐色	ナデ、微線縁、沈線	ナデ		
160	表		石英・長石	良好	灰褐色	ナデ	条痕	炭化物付着	
160			石英・長石・砂粒	良好	黄灰色	ナデ、縄文	ナデ		

第7表 石器計測表

No	器 種	石 材	区 層	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重量g	備考
161	石 鏃	黒曜石	3T 7	1.7	1.45	0.32	0.27	
162	石 鏃	黒曜石	3T 7	1.3	1.15	0.16	0.41	
163	石 鏃	頁 岩	表採	1.65	1.05	0.14	0.41	平山A遺跡
164	磨 石	砂 岩	8T 7	10.5	8.3	3.9	450	
165	磨 石	砂 岩	7T 7	11.5	10.4	(5.4)	755	
166	磨 石	砂 岩	7T 7	11.2	9.2	5.2	705	
167	磨 石	砂 岩	4T 6	(12.6)	5.5	4.3	375	
168	磨石・礮石	砂 岩	4T 6	(9.5)	(5.3)	4.7	315	
169	磨 石	砂 岩	3T 6	(8.3)	(9.1)	(5.9)	450	
170	磨石・礮石	砂 岩	7T 7	11.1	9.5	5.3	630	
171	礮 石	砂 岩	7T 7	(11.2)	9.2	(5.3)	680	
172	礮 石	砂 岩	7T 7	13.4	3.5	(1.4)	60	
173	石 皿	砂 岩	7T 6	(13.1)	(12.6)	3.7	750	

## 《参考文献》

- 1988 河口貞徳 「日本の古代遺跡38鹿兒島」 保育社  
 1989 河口貞徳 「吉田式と前平式のその後について -南九州の早期縄文土器-」  
 『鹿兒島考古 23号』  
 1984 長野真一 「第V章 まとめ」『上祇川遺跡群』 鹿屋市教育委員会  
 1988 新東晃・ 「南九州の円筒土器と角筒土器 -前平式土器と吉田式土器の型式概念をめぐる諸問題-」 『考古学と関連科学』 鎌木義昌先生古希記念論文集

## 第6章 まとめにかえて

宮谷口遺跡、平山A遺跡の発掘調査は故旭慶男が調査員として行った調査であった。調査員とことなる者が整理を担当したために、調査員の意図を十分に反映した報告書とはなり得なかった。特に遺構については、トレンチの落ち込みをどう判断したのか、知り得ないし、細かい状況も説明できなかった。集石の分析など行ったと推測されるのであるが、把握できなかった。不十分ではあるが、一応整理の結果を報告する次第である。

宮谷口遺跡では、弥生時代前期と縄文時代早期の遺物が出土し、縄文時代早期の遺構が検出された。平山A遺跡では縄文時代早期の遺物が出土した。特に宮谷口遺跡については、包含層が良好に残存していると判断される。

宮谷口遺跡では、縄文時代早期の吉田式・前平式・石坂系土器・平樽式が出土した。石坂系土器は、小山遺跡出土の土器を河口貞徳が称しているものである。1トレンチ出土の3の土器はこれにあたるとしても、7トレンチ出土の132は文様とその施文方法が共通するだけで、器形はかなり異なっている。ここでは石坂系土器としたが、石坂系土器については、新たに型式概念を明確化し、型式設定すべきであろう。132の土器を見る限りは、河口の「前平式1類」、長野真一・新東晃一「吉田式」の、貝殻条線がかざるものと非常に近い関係にあるように考えられる。7トレンチでは、層位的にかなり上位に出土していることも注意を要する。貝殻文の円筒土器と角筒土器が出土したが、貝殻条痕が押し引いてある土器片は吉田式として扱った。吉田式を除外すると、長野による「永野タイプ」の前平式であり、新東の「前平式」であり、河口のいうところでは、円筒土器は「前平B式」、角筒土器は「前平式(2類)」である。河口の「前平式」の円筒土器が91の1点のみ出土している。「樽ノ原タイプ」の円筒土器は出土していない。河口は本遺跡で主体となる円筒土器を、「岩本タイプ」・「岩本式」のものも含めて前平B式として独立させている。こうした円筒土器の位置付けは、それぞれの編年観によるため、石坂式→吉田式→前平式→前原B式と考えるか、岩本タイプ→前平式→吉田式→石坂式と考えるかで位置付けも変わってくる。「前平B式」の位置付けは、編年の妥当性にも影響を与えそうである。現在縄文時代早期の遺跡の発掘例が増えているにもかかわらず、各型式の前後関係が吉田町大原遺跡の層位的な裏付けのみしかないのである、調査者たる我々の怠慢であろうか。発掘調査のプロセスの重要性が問われているのではないだろうか。発掘調査の増加に伴って、土器のいろいろなバリエーションが出揃って来た現在、型式学的にも整理し直す必要がある。トレンチ調査であるため、上記3者の編年に対しては、残念ながら細かに実証できない。発掘調査による追認・実証が待たれる。

宮谷口遺跡と平山A遺跡の両方から、口縁部が強く外反し、外面に短沈線と刺突文を施した土器片が出土している。文様から平樽式であると判断される。縄文時代早期の後半の時期に壺形土器が出土する例が増えている。これらは無頸壺様の器形をなすものが多く、宮谷口遺跡・平山A遺跡出土のものとなるが、その可能性は指摘しておきたい。





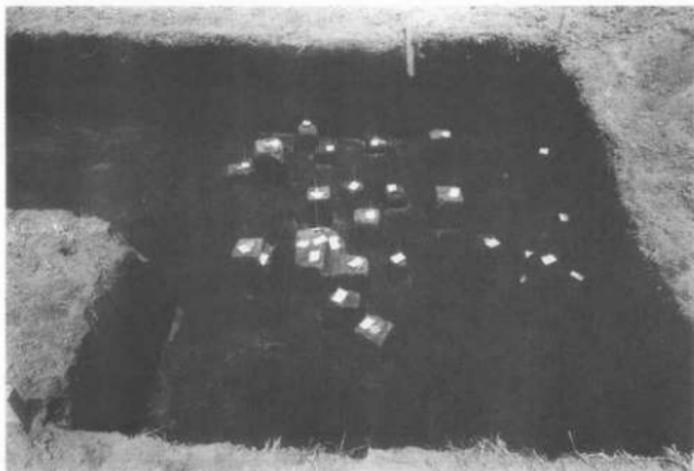




宮谷口遺跡遠景（南から）



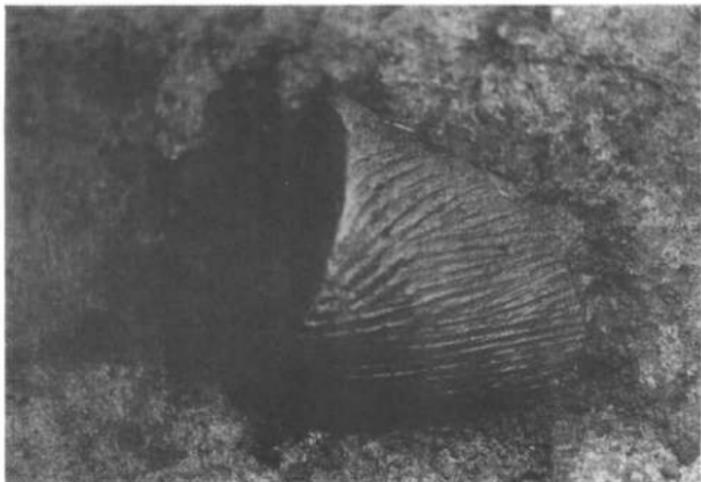
宮谷口遺跡遠景（北から）



宮谷口遺跡1トレンチⅡ層遺物出土状況



宮谷口遺跡2トレンチ遺物出土状況



宮谷口遺跡2トレンチNo.85出土状況



宮谷口遺跡3トレンチ遺物出土状況



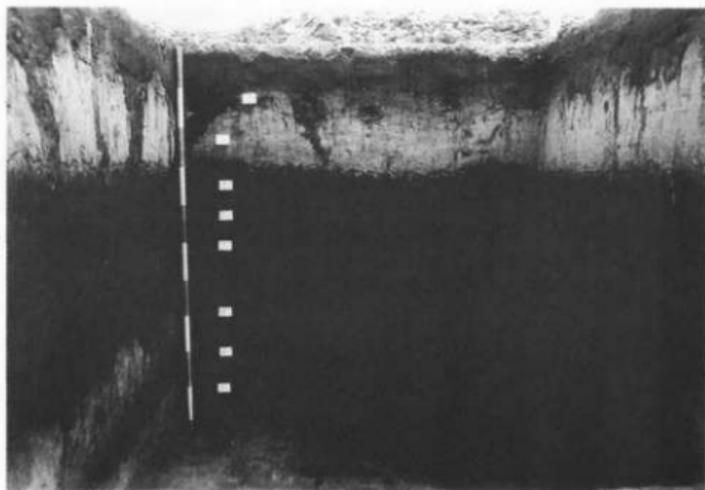
宮谷口遺跡3トレンチ集石遺構



宮谷口遺跡4トレンチ遺物出土状況



宮谷口遺跡4トレンチ完掘状況



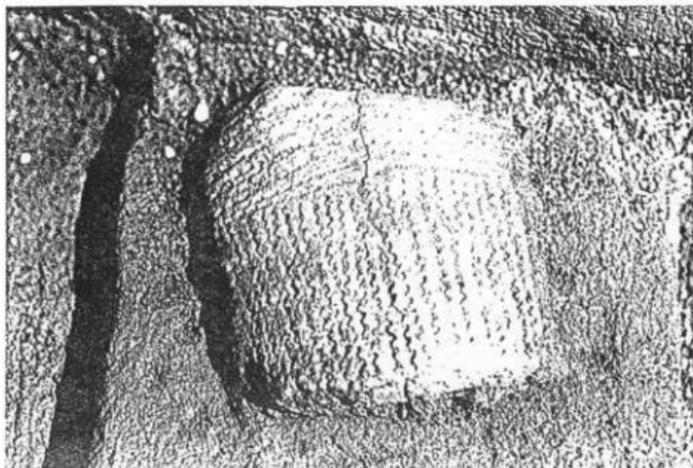
宮谷口遺跡4トレンチ土層



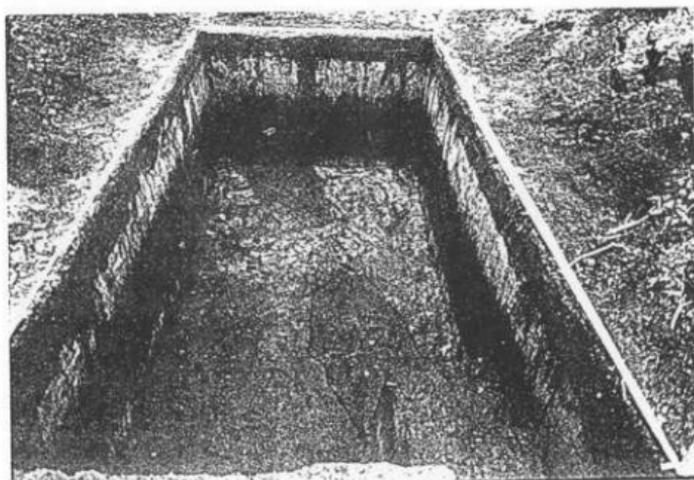
宮谷口遺跡5トレンチ土層



宮谷口遺跡7トレンチ遺物出土状況



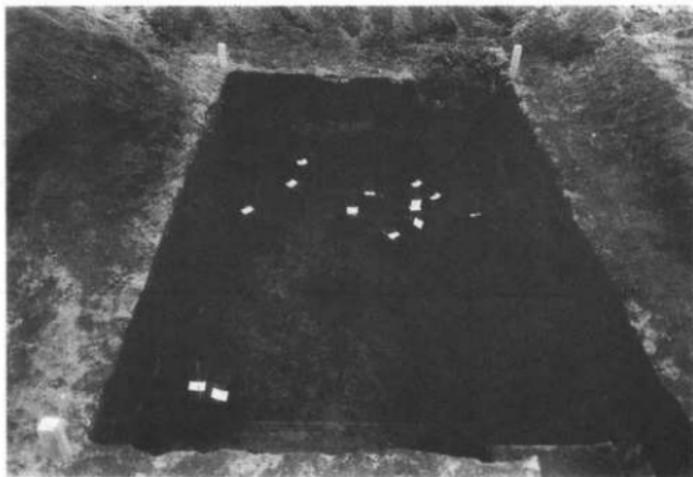
宮谷口遺跡7トレンチNO132出土状況



宮谷口遺跡7トレンチ落ち込み検出状況



平山A遺跡遠景



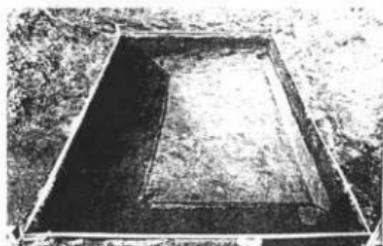
平山A遺跡1トレンチ遺物出土状況



平山A遺跡 3 トレンチ



同 6 トレンチ



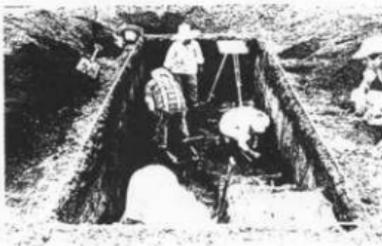
同 7 トレンチ



同 8 トレンチ



同 9 トレンチ



作業風景



宮谷口遺跡出土土器



25



23



85



91



102



92



93



107



108



109



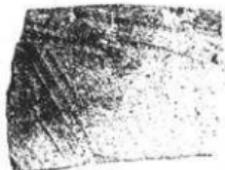
116



130



128



129



132

宮谷口遺跡出土土器



140



142



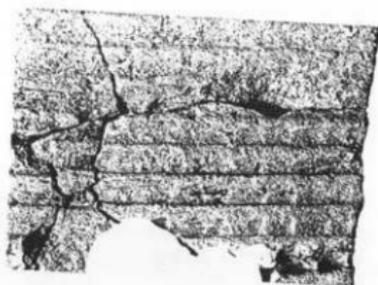
143



141



押し引き (130)



押し引き



92 内面調整

宮谷口遺跡・平山A遺跡出土土器



作業風景



発掘調査参加者（左端が、故 旭 慶男先生）